

2023 年度 部局 FD 活動報告

国際基幹教育機構

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
機構内教育改革委員会を設置している。メンバーは副機構長、大学教育グループから 3 名、その他の教員グループから 3 名の 7 名。FD 活動は科目委員会単位または教員 G 単位で検討・実施されており、機構内教育改革委員会が計画と実施状況の取りまとめを行っている。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
人権 G		
2024 年 3 月 6 日	人権関連科目非常勤講師との意見交換会（予定）	9
大学教育 G		
2023.12.22	初年次ゼミナール説明会	53 人
2023.11.27	初年次ゼミナール実践事例共有会（国際基幹教育機構主催）	74 人
2024.3.21	高等教育研究開発センター専任研究員向け部局 FD「学位プログラムの内部質保証と学習成果の評価に関する研究会」	7 人
英語 G		
2024 年 2 月 19 日	University English A 科目担当者打合せ会（授業の取り組みの発表および、UE1A・2A・3A 担当者意見交換会）	
初修外国語 G		
2023 年 10 月 13 日	文学研究科主催講演「いまロシア語とロシアについて学ぶ意義を考える」京都大学教授中村唯史先生講演会「「ロシア」と「ウクライナ」の形成過程―民族論と文化史の視点から」	149 名
健康・スポーツ科学 G		
【両キャンパス合同】		
2023 年 7 月 19 日(水) 18 時 15 分～	第 1 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学概論におけるヘルスリテラシー教育実践例の共有ならびに意見交換）	10
【杉本キャンパス】		
2023 年 4 月 11 日(火) 12 時 00 分～	第 1 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	10
2023 年 4 月 13 日(木) 12 時 15 分～	第 2 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	12
2023 年 9 月 26 日(火) 12 時 00 分～	第 3 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	9

2023 年 9 月 26 日(火) 16 時 00 分～	第 4 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	7
2023 年 9 月 28 日(木) 12 時 00 分～	第 5 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	6
2023 年 9 月 28 日(木) 16 時 00 分～	第 6 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	8
【なかもずキャンパス】		
2023 年 4 月 5 日(水) 13 時 00 分～	第 1 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による実習授業の展開方法について）	4
2023 年 4 月 21 日(金) 15 時 00 分～	第 2 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業展開の検討）	4
2023 年 4 月 28 日(金) 10 時 00 分～	第 3 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業展開の検討）	4
2023 年 5 月 12 日(金) 16 時 00 分～	第 4 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業展開の検討）	4
2023 年 5 月 19 日(金) 17 時 30 分～	第 5 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業評価の検討）	4
2023 年 5 月 23 日(火) 18 時 30 分～	第 6 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業評価の検討）	4
2023 年 5 月 30 日(火) 18 時 30 分～	第 7 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業評価の検討）	4
2023 年 6 月 20 日(火) 18 時 30 分～	第 8 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業評価の検討）	4
2023 年 9 月 29 日(金) 15 時 00 分～	第 9 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員による学外実習授業の振り返り及び次年度への検討）	4
2024 年 3 月 27 日(水) 15 時 30 分～17 時 30 分	第 10 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による授業展開研修、内容：コンディショニングボールを使ったコンディショニングの実践、バドミントンの技術練習と実践）	10
数学 G		
8 月 24 日	数学 FD ミーティング	約 40
9 月 15 日	非常勤講師向け説明会	4(講師含む)
2 月 29 日	数学 FD ミーティング	約 40
3 月 25 日	非常勤講師・特任教員向け説明会	13(講師含む)
キャリアデザイン科目 G		
5 月 23 日	Chat GPT との向き合い方について	専任 4、特任 4
9 月 26 日	画像生成系 AI の使い方のコツ	専任 4、特任 4
10 月 24 日	THE 世界大学ランキング 2024 について	専任 4、特任 4

特例科目委員会		
2024 年 1 月 26 日	第 1 回・生成 AI との付き合い方を考えるー教育の現場からー	55
2024 年 2 月 16 日	第 2 回・生成 AI との付き合い方を考えるー専門教育の現場からー	55
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (*月*日) ~について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
人権 G		
副専攻担当者会議	前期、後期が始まる前に計画した教育方法・教育内容について、学生の理解や関心に合わせて改善するため、各回の授業後に検討会を行った。(計 5 回程度)	3
副専攻運営会議	登録者の関心に合わせてどのようなプログラムを展開するべきか、前期、後期が始まる前に検討を行った。	5
大学教育 G		
初年次教育科目委員会	2 月 2 日に開催。GP 分布/GPC データの分析、教員・受講生アンケート結果の確認等を実施した。	3 人
大学院共通教育科目委員会	メール会議 (2 月 13 日~2 月 16 日) で、GP 分布・GPC データの分析と検討を行った。	4 人
教職 G		
グループ会議	第 1 回 (4 月 6 日) 教育改善について、第 2 回 (4 月 27 日) 教育改善について、第 3 回 (5 月 25 日) 教育改善について、第 4 回 (9 月 7 日) 教育改善について、第 5 回 (10 月 26 日) 教育改善について、第 6 回 (1 月 25 日) 教育改善について	3 名
教職センター運営会議	第 1 回 (5 月 16 日)、第 2 回 (6 月 20 日)、第 3 回 (7 月 18 日)、第 4 回 (9 月 19 日)、第 5 回 (10 月 17 日)、第 6 回 (11 月 21 日)、第 7 回 (12 月 19 日)、第 8 回 (1 月 16 日) それぞれすべて、教職課程の教育改善について等	3 名
英語 G		
英語授業改善のための意見交換会	「第 1 回 (4 月 7 日) 英語カリキュラム運用諸事案について」、「第 2 回 (5 月 12 日) 同前 (以下同)」、「第 3 回 (6 月 9 日)、第 4 回 (7 月 14 日)、第 5 回 (9 月 15 日)、第 6 回 (10 月 13 日)、第 7 回 (11 月 10 日)、第 8 回 (12 月 8 日)、第 9 回 (1 月 12 日)、第 10 回 (2 月 2 日)	19 名
メール稟議	「森之宮キャンパスにおける「共同研究室」名称問題と	15 名

	特任教員の勤務環境に関する検討（３月１３日）」	
初修外国語 G		
2023 年度第 9 回初修 外国語科目委員会	各言語の担当者より 2023 年度前期 GPC に関する報告を行 い、各言語の状況について質疑応答と意見交換を行っ た。 2023 年 1 月 12 日	12 名
2023 年度第 10 回初修 外国語科目委員会	各言語の担当者より 2023 年度の FD 活動の報告を行い、 各言語の状況について意見交換を行った。 2023 年 2 月 15 日	12 名
健康・スポーツ科学 G		
健康・スポーツ科学 科目委員会	第 1 回（5 月 17 日）森之宮キャンパス特殊室設計にかか る施設課との協議担当について、その他 第 2 回（6 月 14 日）2023 年度の FD 計画について、その 他 第 3 回（7 月 19 日）森之宮キャンパスアリーナ音響につ いて、その他 第 4 回（9 月 20 日）森之宮キャンパスにおける健康・ス ポーツ科学実習時間割案について、その他 第 5 回（10 月 18 日）2025 年度後期健康・スポーツ科学 実習時間割案について、その他 第 6 回（11 月 15 日）2024 年度入学生用健康・スポーツ 科学科目の科目要覧について、その他 第 7 回（12 月 20 日）2024 年度健康・スポーツ科学実習 新規非常勤教員任用について、その他 第 8 回（1 月 17 日）森之宮キャンパスの各室の名称変更 について、その他 第 9 回（2 月 14 日）2023 年度 FD 活動報告について、そ の他 第 10 回（3 月 13 日）健康・スポーツ科学科目の開講方針 および評価方針についての検討、その他	10
教務担当教員会議	第 1 回（8 月 8 日）2025 年度健康・スポーツ科学実習使 用施設ならびに時間割案について、その他 第 2 回（8 月 18 日）2025 年度健康・スポーツ科学実習使 用施設ならびに時間割案について、その他 第 3 回（10 月 6 日）インクルーシブスポーツ実習試験導 入について、その他 第 4 回（10 月 17 日）インクルーシブスポーツ実習試験導 入にかかる調査票の設計について、その他	4
数学 G		

数学科目委員会	第1回：2022年度後期 GPC について等・6/26	8
数学科目委員会	第2回：森之宮移転後の科目運営・非常勤問題について・10/11	7
数学科目委員会	第3回：森之宮移転後の科目運営・非常勤問題について・10/31	6
数学科目委員会	第4回：森之宮移転後の再履修生への対応について・11/21	8
物理学 G		
物理学分野会議 (なかもず地区)	第1回(4月6日)、第2回(5月11日)、第3回(6月8日)、第4回(7月8日)、第5回(9月7日)、第6回(10月5日)、第7回(11月2日)、第8回(12月7日)、第9回(1月11日)、第10回(2月1日)、第11回(3月1日、予定)、各回とも物理学講義科目に関する内容、物理学実験、非常勤講師の配置等について検討しました。	4人
化学 G		
化学グループミーティング	「第1回(4月17日) 学生実験開始時の注意について」 「第2回(5月22日) 学生実験室備品購入候補について」 「第6回(10月23日) 森之宮での新実験テーマ案について」	5
地学 G		
地球学教室会議	第1回(5月9日) 2022年度後期科目 GPC データについて	16名
	第12回(12月19日) 2023年度前期科目 GPC データについて	16名
キャリアデザイン科目 G		
高度人材育成推進センター定例会議	第1回(4月25日) TEC カリキュラムの状況報告、他 第2回(5月23日) 産業界交流報告、海外研修報告、他 第3回(6月27日) リーディング説明会報告、他 第4回(7月18日) ビジネスアイデアコンテスト報告、他 第6回(9月26日) 上期 TEC&Fledge 事業実績報告、他 第7回(10月24日) 「キャリアと実践」報告、他 第8回(11月17日) ビジコン、ビジネス企画発表会報告、他 第9回(12月19日) アドバイザリー委員回開催報告、他 第10回(1月23日) 規定改定, Fledge, AIBET, QBIC, 他	専任教員 4名 特任教員 4名 統括コーディネーター、メンター等 3名 その他関係教員・職員を含め、1回当たり24～28名が参加

	第 11 回（2 月 27 日）関連プログラムイベント実施報告、 他 第 12 回（3 月 26 日）キャリア形成支援活動表彰報告、他	
特例科目委員会		
特殊科目委員会	第 1 回（4 月 28 日）：科目編成、初級日本語教育プログラムの新設について 第 2 回（6 月 23 日）：教材整備、初級日本語プログラムの新設、交換留学生受入れについて 第 3 回（9 月 5 日）：森之宮キャンパス移転後の科目・時間割編成、初級日本語プログラムの実施、交換留学生受け入れについて 第 4 回（2 月 3 日）：FD 報告、成績データについて	2
教育推進課との協議	10 月 2 日 森之宮キャンパス移転後の科目・時間割編成について 10 月 30 日、11 月 16 日 同上	5
国際交流課との協議	4 月 21 日 大学院留学生に対する初級日本語教育プログラムの新設について 6 月 6 日 同上 6 月 16 日 交換留学生受入れについて	4
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
【大学教育 G】 <大学教育 G> ・大学教育 G メンバーは、高等教育研究開発センターの専任研究員として、多様な全学 FD の企画・運営を担当するとともに、他部局の部局 FD 等の支援を行った。（高等教育研究開発センターの FD 関連業務については、別途報告予定。） <初年次教育科目委員会> ・OMU ラーニングセンターの協力を得て、「アカデミックライティング入門」を大阪公立大学用に改定した。 ・教育推進課のポータルサイトに、初年次ゼミナール専用ページを設置し、各種情報を集約して、担当教員がアクセスしやすくした。 ・初年次ゼミナール担当教員と受講生へのアンケート調査を実施した。 ・2022 年度に実施したアンケート結果を「大阪公立大学大学教育」第 2 巻に資料論文として掲載した。 【教職 G】 「教職課程内における学びの成果と教職キャリアに関する検証事業」（内部質保証に関するスタートアップ支援事業）への参画 【英語 G】 ・英語カリキュラムに関する教員、および学生アンケート調査の実施		

- ・非常勤の先生方からの授業内容、運営に関する質問への対応

【初修外国語 G】

《初修外国語科目全体の FD 活動》

*Teams に日常的に FD に役立つ情報の交換や授業改善に関する話し合いを行った。

*非常勤講師に対して、授業改善に役立つ情報の提供をメールまたは Teams のチームを適宜通じて行った。

《言語ごとの FD 活動》

<朝鮮語>

* 教材資料を共有すると共に韓国語 WEB 教室の活用方法について意見交換を行った。

* コース別における授業進度や改善点、模範的な取り組みなどについて意見交換を行い、シラバスを修正した。

* 公平かつ適切な成績評価に対する教員同士の意見交換を通じ、成績の公平性を高めた。

<中国語>

* 全担当者（非常勤講師を含む 42 名）をメンバーとする Teams のチームを作成し、中国語教育の改善に役立つ情報の配信を開始している。Teams の分析機能によると、2023 年 10 月 26 日から 2024 年 1 月 23 日までの 90 日間に「投稿 24、返信 6、リアクション 54、メンション 2」があった。今後も定期的に配信する予定である。

* また、2024 年 3 月に実施予定の初修外国語担当者講師会（Zoom によるオンライン形式）では、時間内にブレイクアウトルームにて中国語担当者間の意見交換を行う予定であり、本学の中国語教育に関する意見や質問等を募り、今後の FD 活動の参考とする予定である。

<ロシア語>

* 共同で受け持つ授業の運営にあたって、非常勤講師同士の円滑なコミュニケーションを促すために、連絡用のプラットフォームとして Google Classroom を活用し、必要な情報の交換を行った。

* 学生にネイティブ・スピーカーとの交流、およびロシア文化と触れ合う機会の提供を目的としてランゲージカフェを開催した。

* Teams 内に初修ロシア語科目のページ（学生及び教員対象）を開設し、ロシア語やロシア文化についての情報を投稿した。

<ドイツ語>

* 授業担当者を対象にグーグルフォームを使って授業アンケートをとり、授業運営上の課題や問題を共有・分析した。

* 後期の成績評価終了後、非常勤講師も含めてオンライン会議を開催するため準備をすすめている（2 月下旬頃に開催予定）。それぞれのクラスやコースに適した教材や授業進度、シラバス記載内容等についての相互チェックと意見交換を行う予定である。

<フランス語>

* 非常勤講師を含む全担当者との連絡用にメーリングリストをすでに設置しており、そこから教育改善に関する情報の交換・共有を行った。

* トゥール大学大学院から FLE（外国語としてのフランス語教育）専攻の大学院生 2 名を受け入れており、フランス語基礎/会話およびフランス語特修の一部クラスで教育実習を行った。

* フランス語クラスで、学生アシスタント（SA）やフランスの交流協定校から受け入れた留学生（日本語学習者）の参加により、学生間交流と学びの活性化を図った。

* フランス語教員を目指す大学院生に対し、TA や TF の経験に加えて、FLE（外国語としてのフランス語教育）教員養成スタージュ受講を推奨した。

* フランス語教育、その他の外国語教育に関する学会や研究会、シンポジウム、講演会への参加を通じ、教育法や学習者支援、授業改善等についての新しい知見を取り入れることを推進した。

【健康・スポーツ科学 G】

- ・ 各教員が FD セミナーなどへの積極的な参加により、FD に対する意識づけとさらなる拡充を目指して活動した。
- ・ 健康・スポーツ科学科目委員会において、健康・スポーツ科学概論および実習の履修方法、授業内容、授業展開、成績評価方法などについて、2024 年度までの両キャンパス開講期間の方針について検討した。また、2025 年度の森之宮新キャンパス移転後の方針について検討を進めた。
- ・ スポーツ教育施設の整備、機材の精選などを行い、さらなる授業の質的向上を目指し、学生満足度の高い効果的な授業展開を行うための検討を進めた。
- ・ 多様な学生への対応を視野に入れ、健康・スポーツ科学実習において、学外での集中野外実習授業を新たに設定し、その授業展開及び指導内容、指導方法について検討した。また、授業後に指導内容、教育評価について検討を行った。
- ・ 次年度の学外集中授業について、より一層の充実を図るため、新たな内容（種目）を設定し、実地踏査を含めた検討を行った。
- ・ 障がいの有無にかかわらず誰もが参加可能なインクルーシブスポーツ実習を 2025 年度より森之宮新キャンパスで開講することをめざし、授業内容の検討ならびに試験的導入を行った。
- ・ これまでに各キャンパスで実施してきたプロジェクト型研究の成果を各授業に適用することで、学生の好奇心の充実を図り、さらに魅力ある授業の展開を目指して活動した。

【数学 G】

数学相談室の運営

Moodle・STACK(オンライン数学テスト)のコンテンツ開発

【物理学 G】

なかもず地区では、森之宮地区移転に伴い、物理学実験の準備について話し合いました。

【生物学 G】

（１）SEL 教室において提供されている接続教育教材について各担当授業内にて紹介し、受講者に活用を促した。高等学校における教科内容（範囲、深度）について、担当教員間で共有した。

（２）成績評価・到達度評価の方法と基準に関して、到達目標・授業科目の概要を共通とする同一科目名のクラス間で、齟齬をきたさぬよう、開講前と成績評価時に打ち合わせと調整の機会をもった。

【地学 G】

複数の授業で SEL 室の利用を呼びかけた。一部の科目（地球学実験 C）で、授業後に独自にアンケートを実施し、結果を担当者と共有した。

【特例科目委員会】

2024 年 1 月 19 日：SI コースにおいて受入れる留学生への日本語科目の提供について、COIL 推進室より特例科目委員にヒアリングがなされた。

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）（4）

科目委員会ごとに分析を行った。GPC が高い／低いクラスについての分析を行うなどした上で、特

に問題がないと判断された委員会、もう少し経年経過を見る必要があると判断された委員会、来年度の成績評価時期に成績評価ガイドライン等の再周知を行うことを確認した委員会などがあった。
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください） ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 76 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 76 ）人
7. その他、追記事項
【人権 G】 特任教員・授業担当非常勤講師とともにFDを行っている。

現代システム科学域・現代システム科学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） ・現代システム科学域・研究科の教務委員会においてFDに関する議題を取り上げ、教務委員会全体として、学域・研究科のFD活動を推進した。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2024年3月21日	現シス学域FDセミナー「FDCとPBLについて」	94名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」「第2回…」と記載）	委員の人数
研究科教学アセスメント実施委員会	第1回4月6日 アセスメントポリシー策定、内規策定、内部質保証の方針確認。 第2回4月27日 アセスメントリストの策定 第3回10月5日 2022年度後期のアンケート結果を共有し、改善すべき状況がないか検討した。	8名
学域教務委員会	毎月1回の定例の委員会の中で、学域独自のFDCやPBLについての現状や課題を共有し、その都度必要事項について協議した。	9名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に）		
・現代システム科学域1年次必修のオムニバス講義4科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビ		

リティ」において、授業担当者によるピア授業参観を行い、「サステイナビリティ」という学域全体の教育理念について理解を深めた。

・後期開講の学域共通科目「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」の4科目では、授業の最終回（第15回）において、各科目の担当者が対談形式で講義を行うことで、各学類や各教員の専門性のみにとらわれず、科目間のつながりやカリキュラム全体について意識するように促した。

・大学院博士前期課程「現代システム科学特別演習1」「現代システム科学特別演習2」において、他の教員が指導する大学院生のポスター発表を聞き、異なる専門分野の視点からコメントを行うことにより、自らの研究指導や講義を改善するための機会を提供した。

・本研究科に在籍中の大学院生に対して「大学院授業内容に関するアンケート」を実施し、その回答を第10回研究科教務委員会（2/29開催）において検討した上で当該分野・当該科目担当教員らへのフィードバックを行なうなど、大学院授業改善のための参考とした。（アンケート実施期間：2024年1月9日～2024年2月22日。）

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

全教員に GPC データを共有し、自身の成績評価について今後の参考とするとともに、評価基準についての意識改善を促した。

とりわけ、学域全体の必修科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」の4科目については、GPC の差が大きくなりすぎないように、学域教務委員会で情報を共有し、今後の評価のあり方について検討した。

研究科企画運営会議において、研究科が授業管理をする2022年度後期（府大人間社会システム研究科）、2023年度前期授業（府大、公立大現代システム科学研究科）のGPC一覧のうち、受講生15名以上の科目を重点的に、成績評価の分布の状況が担当教員に事情を確認する必要があるような特別な状況になっている授業はないか、点検を行った。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

- ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数（学域：94、研究科：86）人
- ・所属内の専任教員の人数（学域：94、研究科：86）人

7. その他、追記事項

--

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 文学部内にFD委員会（教員3名、うち1名が委員長）を設置。ただし前期期間においてサバティカルの取得の教員がいたため、前期・後期で委員が入れ替わっている。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2024年1月26日	FD研修会1 ※2023年度共通テーマ「生成AIとの付き合い方を考える」文学研究科教員による話題提供と質疑応答 向井伸哉 「生成AIと大学教育をめぐる基本情報」 内丸公平 「英語教育の現場から」 海老根剛 「独語教育の現場から」	55名
2023年2月16日「	FD研修会2 ※2023年度共通テーマ「生成AIとの付き合い方を考える」文学研究科教員による話題提供と質疑応答 添田晴雄 「教育学教育の現場から— 電子情報活用指導のこれまでとこれから」 増田聡 「生成AIとオリジナリティ」	48名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数
FD委員会	「第一回（5月19日）今年度の取り組みについて」	3
FD委員会	「第二回（10月16日）大学教育授業実習制度について・今年度のFD研修会について」	3
FD委員会	「第三回（メール審議・11月）FD研修会の開催について」	3
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に） 特になし。		
5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄（必ずご記入ください） 文学研究科教育の質保証委員会から成績GP分布については周知があり、文学研究科の各専修において2023年5～6月、2024年2～3月に確認を行った。GPCデータについてはいただいた資料を研究科内の教育の内部質保証委員会で精査し、認識を共有した。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください） ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （48）人 ・所属内の専任教員の人数 （61）人		
7. その他、追記事項 なし。		

法学部・法学研究科（法学政治学専攻）および同研究科法曹養成専攻

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 【法学部・法学研究科】教育改革委員が法学部・法学研究科（法曹養成専攻を除く）のFDを担当し、教育の質保証委員会、教務委員会、研究教育体制検討委員会でMicrosoft Teamsを活用しながら必要に応じてFDを取り上げ検討している。年に数回、学部および研究科の全員が参加する教授会と同日にFD集会を開催し、全体での情報共有と議論を行っている。今年度はそれとは別に、FD集会のみを開催した。また、部局の全教員・職員をメンバーとするMicrosoft TeamsにFD専用チャンネルを設置しており、常時FDに関する通知および議論を行っている。学生との関係では、法学会による新入生歓迎会や裁判所傍聴、学術講演企画、法学カフェなどの交流行事を開催している。 【法曹養成専攻（ロースクール）】法曹養成専攻FD委員（専任教員2名・実務家教員1名）を中心に、前・後期各1回の定例FD集会（兼任教員・非常勤講師も参加可能）を専攻会議開催日に行い、各学期の授業アンケート結果及び定期試験成績を踏まえた議論に加え、授業改善方法についての報告・議論を行う。クラス担任面談は毎年5月頃に全員に対して行い、必要な情報を共有する。学外委員との教育課程連携協議会を年2回開催する。アカデミックアドバイザー（本専攻出身若手弁護士に就任を依頼）との意見交換会を年2～3回行う。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
【法学部・法学政治学研究科】		
なし	なし	
【法曹養成専攻】		
2023年10月11日	「2年次前期に開講された法律基本科目の応用科目における論述能力の涵養」（坂口准教授、藤井准教授、鶴田教授、および三島教授による実践事例の報告と意見交換）	26
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（＊月＊日）～について」「第2回…」と記載）	委員の人数
【法学部・法学政治学研究科】		
FD関係ディスカッション（Microsoft Teamsチャンネル）	常時開設（授業方法の情報交換その他FD事項の自由な議論）	37
FD集会	第1回（7月12日）初年次教育のあり方について 第2回（11月22日）初年次ゼミナールの振り返りおよび授業アンケート結果の共有、2022年度後期及び2023年度前期のGPCデータの結果をシェア 第3回（3月20日）教育の内部質保証に係るデータ、公大2	37

	年生調査（法学部）の共有および検討	
教育の内部質保証委員会	常時開設（FD はじめ教育の内部質保証に関する案件が生じた場合の自由な議論）	10
【法曹養成専攻】		
FD 集会	第 1 回（5 月 10 日）2022 年度後期成績分布および 2022 年度後期授業アンケートへのコメントの確認とそれを踏まえた意見交換 第 2 回（10 月 11 日）2023 年度前期成績分布および 2023 年度前期授業アンケートへのコメントの確認とそれを踏まえた意見交換	参加者 22 名 参加者 26 名
教育課程連携協議会	第 1 回（9 月 26 日）①共通到達度確認試験の現状と課題に関する意見交換、および②在学中司法試験受験の現状と課題に関する意見交換 第 2 回（3 月 19 日開催予定）①令和 5 年司法試験結果をふまえて（在学中受験の影響と今後について）、および②司法試験の CBT 化と教育課程への影響に関する意見交換	5 名（うち学外委員 3 名）
AA（アカデミック・アドバイザー）との意見交換会	第 1 回（8 月 1 日）前期の実施状況をふまえた意見交換と今後の体制についての検討 第 2 回（3 月 5 日開催予定）後期の実施状況に関する情報共有・意見交換および今後のアドバイザー担当者の調整等	実定法科目担当者を中心とする法曹養成専攻教員及び AA
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
【法学部・法学政治学研究科】 - 大阪公立大学法学会と連携して新入生歓迎会（4 月）、法学カフェ（6 月および 11 月）、大阪地方裁判所見学（11 月）、学術講演企画（5 月、11 月）、学生論文コンクール（2-3 月）の行事を継続、学部生・大学院生との交流懇談の機会を確保。 - 相互授業見学（学部）を実施した（12 月）。 - 演習担当教員・教務委員等を通して、留学生や成績不振学生を対象にした個別の学習相談を行う - 授業振り返り実施期間の検討（1-2 月） 【法曹養成専攻】 - クラス担任面談の実施と情報共有（5 月） - 司法研修所と法科大学院協会との意見交換会（刑事法、6 月 22 日）への出席と出席者による概要報告（7 月定例専攻会議） - 前期教務関係アンケートの実施（カリキュラム全体に対する学生からの意見収集、7 月実施） - 相談希望学生を対象とする法律基本科目担当教員による後期学習相談会の実施（9 月 20 日開催） - 司法研修所と法科大学院協会との意見交換会（民事法、9 月 28 日）への出席と出席者による概要報告（10 月定例専攻会議） - 後期教務関係アンケートの実施（カリキュラム全体に対する学生からの意見収集、1 月実施） - 司法研修所と法科大学院協会との意見交換会（刑事法、2 月 19 日）への出席と出席者による概要報告（3 月定例専攻会議予定）		

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

【法学部・法学政治学研究科】

(ア) 11 月 22 日開催の第 2 回 FD 集会にて GP 分布および GPC 分布のデータを共有し、評価基準に関する認識を共有し課題を検討した。

【法曹養成専攻】

(イ) 各学期の定期試験後の法曹養成専攻 FD 集会で、全科目の成績分布についての情報を共有して意見交換を行い、評価基準に関する認識の共有を図っている。

6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

【法学部・法学研究科】

・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数（ 35 ）人

・所属内の専任教員の人数（ 35 ）人

【法曹養成専攻】

・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数（ 11 ）人 ※法科大学院専任教員の人数

・所属内の専任教員の人数（ 11 ）人 ※法科大学院専任教員の人数

7. その他、追記事項

【法学部・法学研究科】

・法学部・法学研究科・法曹養成専攻のアセスメントポリシーとアセスメントリスト提出（5 月）

・教育の内部質保証委員会議開催（5 月、3 月）

・各学位プログラムの学習成果評価および基幹教育に関するヒアリング調査を国際基幹教育機構から受け、意見交換（1 月）

【法曹養成専攻】

・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による法科大学院認証評価を受審した。その結果、FD 関連事項に関しては、「授業の方法の方針について、授業を担当する教員の間では一定の共有がなされているものの、組織的に統一された方針が策定されていない。そのため、統一された方針に基づき授業が実施されているとはいえない。」という指摘を受けた。この指摘を踏まえ、来年度は、授業方針の統一された方策の策定に向けて検討を進める予定である。

経済学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

今年度の FD 活動の取組みについて、全学委員としての教育改革委員が教育の内部質保証 WG（＝部局教育改革委員会、メンバーは拡大教務委員会）と相談し合っている。

2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 7 月 26 日	Moodle の講習会 I（ゼミ募集サイトの作成）	7 人
2023 年 8 月 2 日	Moodle の講習会 II（ゼミ募集サイトの作成）	6 人
2023 年 8 月 23 日	Moodle の講習会 III（新バージョンの Moodle の使い方）	41 人
2024 年 1 月 10 日	学部・大学院における研究倫理について	41 人
2024 年 2 月 8 日	学部におけるグローバル教育と大学院のグローバル化の展	39 人

	開について	
2024 年 3 月 20 日	学部・大学院における経済データサイエンス教育について	33 人
2024 年 3 月 20 日	2023 年度 経済学研究科・経済学部の GP 分布・GPC の分析結果の報告と意見交換、学生調査の結果の共有	38 人
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (* 月 * 日) ~ について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
部局教育改革委員会	第 1 回 (2024 年 3 月 19 日)	9 人
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組 (但し、成績 GP 分布関連は次項に)		
● 学生の 3 回生以降の卒業論文のあり方について、原案について議論を行った。 ● 海外の大学への研修・訪問の実績 ・ フィリピン (学生を引率しての海外研修) ・ インド、マレーシア、フィリピン (海外大学との連携交渉) ・ アメリカ (学術訪問)		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄 (必ずご記入ください)		
部局内の GP 分布・GPC データの分析を行い、以下の学部及び大学院の分析結果を、3 月の教授会で報告・共有し、意見交換を行った。 ● 基本統計量 ● クラスサイズ (履修生数)、GPC、合格率のそれぞれの分布 ● GPC、合格率とクラスサイズの関係 ● GP 分布 ● 全体の GP 分布からの個別科目の乖離		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)		
・ 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (41) 人 ・ 所属内の専任教員の人数 (44) 人		
7. その他、追記事項		

商学部・経営学研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください) 教育の内部質保証委員会 (研究科長、副研究科長、副研究科長、研究審議会第 5 号構成員) 同委員会にて年度毎に FD 研修について実施内容検討

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 10 月 11 日	高等教育研究開発センターの星野聡孝氏をお招きし、Moodle およびていら・みすの利活用の方法についてご講義いただいた。	36 名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
教育の内部質保証委員会	第 1 回（5 月 17 日）2022 年度後期成績分布状況の確認について	4 名
	第 2 回（6 月 14 日）2022 年度後期科目に関するアンケート実施について	4 名
	第 3 回（7 月 18 日）2022 年度後期科目に関するアンケート結果について	4 名
	第 4 回（9 月 5 日）2022 年度後期授業振り返りの結果について	4 名
	第 5 回（11 月 8 日）2023 年度前期成績分布状況について	4 名
	第 6 回（12 月 13 日）2023 年度前期科目におけるアンケート結果について	4 名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
・成績不振の学生に対する学習相談 一定の基準にもとづいて成績不良者（留年・仮進級生）をリストアップし、専門ゼミナールに所属している学生についてはゼミ教員が、専門ゼミナールに所属していない学生については、1 回生時のプロ・ゼミナール担当教員や教務委員等が直接面接・連絡し、学生の状況を把握するとともに、学力向上の方法について共に考える機会を作った ・経営学会主催の大学院生向け研究会の実施 2023 年 7 月 24 日、15：00-16：30（学術情報総合センター9 階・情報教育実習室 9C） 参加者約 30 人（大学院生・教員） 大学院生向け研究会は、経営学研究科の大学院生（主に新入生）向けに開催しており、若手教員である高木修一先生が報告された。大学院進学から現在までの体験を交えながら、研究上の課題や解決策など広く「研究の方法」について紹介し、大学院生や教員からの質問に答えて懇談した。大学院生にとっては、研究の方法を学ぶ良い機会になった。 ・『CORE（学生論文集）』優秀論文の表彰 2023 年 10 月 17 日 受賞者：専門ゼミナールの 5 チーム 『CORE・学生論文特別号 2023』に掲載された論文 26 本の選考を行い、優秀論文 5 本を決定。受賞者		

は商学部ホームページにて発表した。商学部の専門ゼミナールでの学生の勉強意欲を高めるための試みであった。

・令和5年度商経人権研修会

日時：2023年12月13日（水）13:00～13:50（オンライン開催）

テーマ：公害問題の現在

2023年9月、大阪地裁は水俣病被害者の集団訴訟で、原告全員勝訴の判決を言い渡した。福島原発事故でも集団訴訟が継続しているが、これも現代の公害事件とみることができる。このように公害問題は現在進行形の人権課題である。他方で、公害激甚期を体験した被害者が高齢化していくにつれ、被害者運動の記録と記憶を継承していくことも同時に課題となっている。こうした多面的課題を抱える「公害問題の現在」について話題提供を受け、議論を深めた。

司会：明戸隆浩（経済学部教員）

話題提供者： 除本理史（商学部教員）、林美帆（商学部客員研究員、公益財団法人水島地域環境再生財団研究員）

両学部から62人が参加した。

・優秀GPA学生の表彰

3月22日の学位授与式で表彰を行う予定。

5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

教育の内部質保証委員会で成績分布を確認し、不合格が2割以上の教員を対象に原因分析と改善策に関するアンケートを実施する。アンケート結果を教授会で報告する。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 36 ）人

・所属内の専任教員の人数 （ 40 ）人

7. その他、追記事項

特になし。

都市経営研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

高野恵亮 都市経営研究科 研究科長

水上啓吾 同 総務委員

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023年9月21日	『アカデミック・ハラスメントの実態と特徴』	11

後日 録画公開		4
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(※月※日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組(但し、成績 GP 分布関連は次項に)		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
成績 GP 分布、GPC データの扱いとその利活用方策については2023年1月の研究科教務委員会で検討を行ったところであるが、その時点の委員会の結論として、大学院ということで他の研究科同様サンプル数が少ないこと、社会人大学院ということでさらに年度によって振れ幅が大きいことなどを鑑み、直接的に当該データの利活用を図ることは困難であり、当面は利用しない方向ということであった。なお、当時の委員会の検討においては、今後他研究科における利活用の事例が出てきた段階で改めて検討を行う余地もあるのではないかと意見も出されたが、今年度においては当面は利用しないという前年度委員会の方向性を変更する検討はなされなかった。		
6. 年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数(11)人 ・所属内の専任教員の人数(12※)人※サバティカル期間中の教員1名除く。		
7. その他、追記事項		
上記 FD 講演会の内容は以下のとおり。 講演：『アカデミック・ハラスメントの実態と特徴』 講師：広島大学ハラスメント相談室 准教授 北仲 千里 氏 講師による講演を1時間程度行った後、出席者と講師による質疑応答が30分程度なされた。		

情報学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)		
情報学研究科は学際情報学、基幹情報学の2専攻からなり、各専攻でFD検討委員会を設置。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
4/7	大阪公立大学 大学院情報学研究科 設置記念シンポジウム 「繋がる」を広げる～「×情報学」による分野横断型研究の促進	不明
5/12	FD 研修会「Chat GPT と大学教育 - 対話型 AI が教育現場	不明

	にもたらすインパクトと対応策」	
5/2～5/22	第1回王立ブノンペン大学教員研修団来訪 世界銀行プロジェクトによる上記教員団を受け入れ、 期間内に専攻教員と研究指導、授業計画に関する研修 を行った。	来訪教員団6名 基幹情報学 全教員 学際情報学 一部教員
11/24～12/1	第2回王立ブノンペン大学教員研修団来訪 同上。	同上
12/13	全学FD・全学SD「大学における生成AIの活用について 考える一教職員・学生の活用事例から」	不明
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
基幹情報学FD検討会 議(全12回)	毎月最終週火曜日開催の専攻会議と同時に開催、カリキ ュラム等を検討	29人
学際情報学専攻FD会 議	学際情報学専攻の授業実施内容の検討・2月8日	26人
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組(但し、成績GP分布関連は次項に)		
・Microsoft Azure Dev Tools for Teaching を利用し、所属学生が授業の自習・研究に利用可能なプロ グラミング開発環境の提供を行った。 ・大学院生について、8/30にポスター発表形式の中間報告会を実施。中間報告として研究内容をまと めることにより、各自の研究進捗を促すと同時に他研究室との交流を行った。		
5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
基幹情報学専攻 専攻会議で共有、分析を行った。後期は2022年度のみ、前期も22,23年度2年分のため、まだ十分 なデータが蓄積されていないが、前期分については経年で大きな変化は見られない。 学際情報学専攻 FD会議において成績GP分布を共有し確認した。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (55) 人 ・所属内の専任教員の人数 (55) 人		
7. その他、追記事項		

1. 各部署のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
・教育改革委員が理学FD委員会を組織 ・教育改革委員会の議事録、議事資料等の全情報を理学FD委員会に開示、共有 ・各学科・専攻においては独自かつ自由なFD活動を実施 ・理学FD委員会で各学科・専攻の活動を報告		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
○数学科・数学専攻 数学科FDミーティングを、大阪公立大学として統合後、杉本、中百舌鳥両キャンパスにおける前後期講義に関する意見交換、今後に向けた課題に対する認識及び共有を図ることを目的として定期的に開催している。		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	新入生カリキュラムオリエンテーション	33名(新入生)
1/12	卒業研究配属説明会（中百舌鳥）	約40名
2/2	修士論文発表会（杉本）	約30名
2/8	修士論文発表会（中百舌鳥）	約25名
2/9	卒業研究発表会（中百舌鳥）	約50名
2/15	理学研究科FD委員会・大阪公立大学数学研究所共催 FD研修会「人工知能と数学」	58名 (参加登録者数)
○物理学科・物理学専攻 教室会議・運営委員会における教員間の情報共有と議論、談話会における学外者による講演、学生ガイダンスや3年生への研究室紹介における学生からのフィードバック、修士論文発表会・博士論文公聴会における教育成果の検証。		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/12	新入生歓迎セミナー	約80人
11/27～12/22	研究室訪問	約40名
12/26	研究室年末発表会	約70名
2/6～2/8	修士論文発表会	約80名
2/15	卒業論文発表会	約60名
1/26,1/31, 2/19, 2/22	博士論文公聴会	約30名
○化学科・化学専攻 専攻会議、教室会議において教員間の情報共有と議論、談話会等における学外者による講演等を通じてFD活動を行っている。		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
	化学科・化学専攻	

4/2	新入生ガイダンス	約 90 名
8/10	大阪公立大学化学セミナー	約 150 名程度
2024/1/12	研究室ガイダンス	約 60 名
2023/1/31	学位論文公聴会	35 名
2/6, 7	修士論文発表会	約 100 名
2/8	卒業論文発表会	約 150 名

○生物学科・生物学専攻

生物学専攻会議において、教員間の情報共有と議論を通して FD 活動を行っている。

開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	学年ガイダンス	各学年の学生も含めて平均 30 名
6/20, 12/22	学位公聴会	学生を含めて 50 名程度
2/8	修士論文発表会	学生を含めて 150 名
1/25, 26	研究室ガイダンス	学生を含めて 35 名
2/14	卒業研究発表会	学生を含めて 150 名

○地球学科・地球学専攻

地球学科構成員全員で、カリキュラム、成績評価、履修状況などの情報を専攻会議などの場で共有し、課題や対策の議論を通じて、FD 活動を進めている。

開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	新入生ガイダンス	学生 27 名と教員 15 名
4/2	大学院新入生ガイダンス	学生 14 名と教員 3 名
7/31	3 年生の履修状況確認と研究室の配属ガイダンス	3 年学生 24 名と教員 11 名
12/20	地球学演習Ⅲの発表会、研究室の配属ガイダンス	1 から 3 年学生 約 70 名、教員 12 名
2/8	修士論文発表会	学生約 40 名、教員 16 名
2/15	卒業研究発表会、研究室配属ガイダンス	1 から 3 年学生

		約 70 名，教員 12 名
○生物化学科・生物化学専攻 生物化学科専攻会議構成員（生物化学専攻教授、准教授、講師）が主体となり、当該専攻および学科の FD 活動を実施している。授業内容に関しては、授業ふり返し（授業評価アンケートを含む）の実施ならびにその回答を活用し、専攻会議構成員内で共有し、FD 活動の促進を図っている。		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	新入生オリエンテーション	学生を含めて 51 名
4/4	授業の質向上研修会	12 名
6/8	研究室ガイダンス	学生を含めて 50 名
9/11	修士 1 年 研究発表会	学生を含めて 34 名
9/12	修士 2 年 研究発表会	学生を含めて 40 名
2/19	博士論文公聴会	学生を含めて約 20 名
2/22	修士論文発表会	学生を含めて約 50 名（予定）
2/29	卒業研究発表会	学生を含めて約 70 名（予定）
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（＊月＊日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
第 1 回理学 FD 委員会	令和 6 年 3 月 6 日（水）オンライン 理学研究科に送られてきた一年生、二年生、上級生アンケート調査集計結果について FD 委員会としての意見集約「学生調査から読み取れる課題」を行った。	7 名 (理学 FD 委員)
数学科 FD ミーティング	第 1 回 8 月 24 日（木），第 2 回 2 月 29 日（木）． 杉本，中百舌鳥両キャンパス数学科専任教員が集合する年度内 2 回の機会を FD ミーティング開催に活用している． 前後期講義に関する意見交換及びそれらに対する今後の課題を共有することを目的として実施している．	40 名 (数学科専任教員)
物理学教室 教室会議	「専攻長会議教務事項報告を受けて」	46 名

	4/25, 5/30, 6/27, 8/1, 8/29, 9/29, 10/27, 11/24, 12/22, 1/26, 3/1, 3/29	
物理学教室運営委員会	「修士論文について」 4/19, 5/31, 6/7, 6/21, 7/5, 12/13, 1/10 「博士論文について」 1/10, 1/24 「年次報告について」 4/19 「教育国際化について」 4/26, 5/17, 12/20 「研究室配属について」 5/31, 6/7, 6/21 「学部・大学院入試について」 6/21, 7/19, 8/30, 9/13, 9/27, 10/11, 11/15, 12/20, 1/31 「単位認定について」 9/13 「キャリア支援について」 11/1 「配慮が必要な学生について」 12/20	25 名
化学専攻会議(Zoom)・ 化学科教室会議(メール会議)	「大学院入試について」 2022/4/14, 5/12, 6/16, 7/15, 10/13, 12/15 「学部入試について」 7/14 「学位論文の申請・評価基準について」 4/14 「研究指導教員等について」 10/13 「研究室配属について」 10/13	約 45 名参加
生物学専攻・生物学科 教室会議	「大学院入試について, 学部入試について」 5/1, 6/1, 8/3 「大学院推薦・飛び級入学について」 8/3 「学生教育経費について」 8/3, 12/7, 1/9 「学部専門実習のプログラム再編について」 10/5 「指導教員について」 5/1 「学部学生の所属研究室について」 6/1, 7/3, 9/19, 3/4 「修士論文発表会について」 9/19 「学位申請について」 7/3, 10/31, 12/7, 1/30	平均 23 名参加
生物学専攻・大学院運 営委員会	「学位申請について」 6/20, 12/22	平均 10 名
地球学専攻会議	第 1 回 5 月 30 日 学部のカリキュラム, 履修について. 第 2 回 6 月 27 日 大学院入試について. 総合教養科目「現代科学と人間」について. 学部専門科目のカリキュラム, 履修について. 学部入試について. 第 3 回 7 月 25 日 大学院入試について. 第 4 回 8 月 25 日 大学院入試について. 第 5 回 9 月 26 日	平均 15 名

	大学院のカリキュラム，履修について． 学部専門科目のカリキュラム，履修について． 第 6 回 10 月 31 日 大学院入試について． 基幹教育科目「地球学実験 C」の運用について． 第 7 回 11 月 28 日 大学院のカリキュラム，履修について． 基幹教育科目「地球学実験 C」の運用について． 学部専門科目のカリキュラム，履修について． 第 8 回 12 月 19 日 大学院のカリキュラム，履修について． 大学院入試について． 学部の専門科目のカリキュラム，履修について． 第 9 回 1 月 30 日 大学院のカリキュラム，履修について． 総合教養科目「現代科学と人間」について． 基幹教育科目「地球学実験 C」の運用について． 学部の専門科目のカリキュラム，履修について． 第 10 回 2 月 27 日 大学院入試について． 第 11 回 3 月 26 日 大学院入試のカリキュラムについて．	
生物化学専攻・生物化学 学科教室会議	第 1 回（4 月 20 日）「府大生物科学課程の授業（再履修者対象）の日程調整、学生実習の内容調整、研究室ガイダンスについて」 第 2 回（5 月 18 日）「2023 年度前期履修状況の確認、新入生保護者懇談会のプログラム作成、復学学生に対する学習指導について」 第 3 回（6 月 15 日）「修士課程 1 年および 2 年の発表会について」 第 4 回（7 月 20 日）「オープンキャンパスの開催内容について、大学院入試について」 第 5 回（9 月 21 日）「再履修者対象の授業について」 第 6 回（10 月 29 日）「2024 年度の時間割作成について」 第 7 回（11 月 16 日）「新入生カリキュラムオリエンテーションの開催内容について、森之宮キャンパス移行後の時間割について」 第 8 回（12 月 21 日）「公大授業について、博士後期課程の学位論文の取扱いおよび審査について」	平均 13 名

	第9回（1月18日）「2024年度開講の集中講義について、修士・博士新生オリエンテーションについて」 第10回（2月15日）「2024年度の教務・カリキュラムについて、修士論文、卒業研究発表会について」 第11回（3月21日予定）「学生の就学状況（学生異動・成績を含む）などについての情報の把握と共有、学生の修学指導について」	
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
理学部・理学研究科全体の当初取組予定を記す。 （1）シラバスを活用した授業科目間の連携強化 （2）大学院博士前期課程の研究教育の充実 （3）デジタルコンテンツの拡充と活用の推奨、chatGPT への対応 （4）学期ごとの単位修得状況の把握と成績不振な学生に対する学習相談 （5）他部局または学外におけるFD活動に関する情報共有 （6）ポートフォリオシステム（ていら・みす）活用の推奨 上記項目について各学科・各専攻レベルもしくは各担当者レベルで取り組みを行っているところである。		
理学研究科数学専攻・数学研究所(OCAMI) は、数学教育の充実を図るため、学生、教職員、研究者、一般の方を対象に、大学院教育をはじめとする新しい数学教育の展開のためのFD研修会を、多様な分野から研究者を招聘し開催している。これは、阪市大数学教室のFD活動に遡り10年以上の活動実績がある。阪公大数学科は、このFD研修会を継承しFD活動として実施している。		
「物理学演習1」担当者（教員4名）による担当者会議（講義期間中断続的に開催）。 「物理学実験WG」（担当教員による会議）を講義期間中に断続的に開催。 オムニバス科目の担当者による担当者会議（講義期間中に断続的に開催） 学生アドバイザーによる学生との個別面談（年1, 2回） 動画による講義補助（複数の教員が実施） 年次報告書を作成し、教育活動・成果について共有 学生実験のテキストを作成		
生物学科・生物学専攻においては、学生の単位習得状況の把握と学習相談について、各学年の担任・副担任が主体的に活動を行うとともに、学科・専攻教授会において議論を重ねている。また、オムニバス授業に関して、随時担当者間での議論を行っている。		
地球学科においては、授業科目間の連携を強化するため、他科目のシラバスの確認や教員間での情報共有をおこなった。ポートフォリオシステム活用を促進するため、学科内で周知をおこなった。学生アドバイザー、科目担当者を中心に、学生の単位修得状況の把握と成績不振学生に対する対応をおこなった。		
生物化学科では時間割やシラバス登録内容など、課程内の教務・カリキュラム上の意見調整などを行った。また、授業ふりかえりの学生の回答率を上げるための周知方法の検討を行った。また、回答があったものについては、その回答を基に、授業の設計、実施の見直しなどの検討を行った。		

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
第 2 回数学科 FD ミーティングにおいて、市大、府大 3 年次学生の GPC データを共有し、卒業研究指導、進路指導、次年度以降の授業の準備に活用することなどを議論する予定である。		
物理学科教室会議でデータを共有し、分析・検討を行った。		
化学科・専攻内でデータを共有した。今後の各自担当講義の成績評価の参考とする。		
生物学教室内で情報をシェアし、各自担当講義の成績評価の参考とする。		
地球学教室内で成績 GP 分布、GPC データに関して、学科内で情報共有・分析するとともに、今後の対応を議論した。		
生物化学科および専攻内にて情報を共有し、次年度の検討課題とした。		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）		
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(40) 人	
・数学専攻所属内の専任教員の人数	(40) 人	
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(46) 人	
・物理学専攻所属内の専任教員の人数	(46) 人	
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(45) 人	
・化学専攻所属内の専任教員の人数	(45) 人	
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(27) 人	
・生物学専攻所属内の専任教員の人数	(27) 人	
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(15) 人	
・地球学専攻所属内の専任教員の人数	(15) 人	
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数	(17) 人	
・生物化学専攻所属内の専任教員の人数	(17) 人	
7. その他、追記事項		

工学部・研究科（情報工学科除く）

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
工学研究科の全教員を対象とした FD 集会は、公立大学工学教務委員会で企画している。その他教育改善に係わる情報も工学教務委員会で共有している。また、各学科・分野ごとに FD 会議を開催することで、各科目や各教育課程に関する改善や情報共有を個別に行っている。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023.08.29	工学 FD セミナー「高等学校における学習指導要領改定に伴う情報科教育の今」	165 人

3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
第1回工学FD報告会	2023年度の工学研究科の各学科・専攻におけるFD取り組みの概要を発表し、情報を共有した(3月14日)	26人
航空宇宙工学FD会議	月1回の教室会議において、学生の履修状況や学習成果についての点検・評価と、教育の質の改善・向上に関する検討を実施(12回)	12人
2023年度第1回海洋システム工学科/分野FD会議	2023年度海洋システム工学概論 工場見学の実施内容の検討、入学者成績分布状況、入学時アンケートの分析(4月25日)	12人
2023年度第2回海洋システム工学科/分野FD会議	2024年度以降の機械工作実習について、受験生の志願学科分析について協議(5月23日)	12人
2023年度第3回海洋システム工学科/分野FD会議	授業アンケートについての分析、2024年度以降の大学院科目に関する協議(6月27日)	12人
2023年度第4回海洋システム工学科/分野FD会議	2024年度以降の機械工作実習について、2024年度以降の学部科目内容および科目担当者の変更について、後期科目海洋システム総合演習について協議(7月25日)	12人
2023年度第5回海洋システム工学科/分野FD会議	前期成績情報報告、JABEE(内部質保証)エビデンス資料の保管期間について、転学科の選考方法・条件等について協議(9月26日)	12人
2023年度第6回海洋システム工学科/分野FD会議	修了要件に含む事が可能な他専攻B群科目について、2次回以降のJABEEの継続審査について協議(10月24日)	12人
2023年度第7回海洋システム工学科/分野FD会議	2024年度 初年次ゼミナールおよび「エンジニアのためのキャリアデザイン」担当者選出、森之宮キャンパス使用教室調査、2024年度「海洋システム工学総合演習」の内容について協議(11月21日)	12人
2023年度第8回海洋システム工学科/分野FD会議	博士前期課程のカリキュラムポリシーの変更について、2024年度「海洋システム工学総合演習」の内容について、協議(12月26日)	12人
2023年度第9回海洋システム工学科/分野FD会議	卒業研究ルーブリックの内容確認、外部評価委員会の開催および内容について、協議(1月23日)	12人
2023年度第10回海洋システム工学科/分野	総合型選抜入学前教育、外部評価委員会の開催および内容について、協議(2月27日)	12人

FD 会議		
2023 年度海洋システム工学科/分野 FD 外部評価委員会	分野 FD 外部評価委員会を開催。以下の内容を報告し、外部評価委員の方々より、評価・ご意見を頂戴した。 ・2023 年度活動報告（入試・教育・研究） ・入学者分析、成績分布、研究発信状況 ・大学統合後の状況（3 月 19 日）	18 人
2023 年度第 11 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	外部評価委員からのアンケート内容の共有、年度の FD 活動の振り返り、次年度からの FD 会議および外部評価委員会のあり方について協議（3 月 26 日）	12 人
（機械工学科） 教育点検・生活指導委員会	学生の履修状況や授業の問題点等を教員間で情報共有し、対応が必要な学生の分野内アドバイザーへ対応を依頼した(4/25、5/23、7/4、7/25、9/19、10/26、11/30、12/26、1/30、2/27、3/26)。（中百舌鳥）	24 人
機械工学科 FD 集会	10 月 5 日開催。次年度から実施する「機械設計演習」および「機械製作実習」の内容について協議した。両科目の検討ワーキンググループの代表者から内容説明があり、課題のボリュームや運営方法について意見交換を行った。後日 12 月 11 日、別途検討中の「機械応用実験」の内容も含めて、オンラインにて中百舌鳥側教員への 3 科目の内容説明を行い、さらなる検討を行った。（杉本）	30 人
（機械工学科） 科目間調整WG	・機械工作実習：2023 年度後期ならびに 2024 年度後期開講の機械工作実習の実習案を作成するとともに、受講生の履修状況ならびに対応について協議した（4/25、7/19、9/27、1/5）。（中百舌鳥） ・機械工学実験：旧カリキュラムの機械工学実験の内容等について検討した(7/27、8/10、10/16、12/4、1/22、3/18)。（中百舌鳥）	24 人
公大・機械工学基礎・ 応用実験 WG	・中百舌鳥・杉本合同で新カリキュラムの機械工学基礎実験、機械工学応用実験の実施内容を検討した(7/28、8/8、8/9、12/11)。（中百舌鳥・杉本）	5 人
公大建築会議	第 1 回（8 月 7 日）未来に向けて”いま”学ぶべきこと	13 人+学生
公大建築会議	第 2 回（2 月 8 日）各分野が育てたい“人”	11 人+学生
都市学科 FD 会議	2022 年度の卒業・修了時アンケート結果および 2023 年度新入生アンケート結果の共有（7 月 31 日）	20 人
電子物理系 FD 会議 （専攻教授会）	第 1 回（4 月 27 日） 第 2 回（5 月 25 日） 第 3 回（7 月 6 日） 第 4 回（7 月 27 日） 第 5 回（9 月 28 日） 第 6 回（10 月 26 日） 第 7 回（11 月 3 日） 第 8 回（11 月 30 日） 第 9 回（12 月 26 日） 第 10 回（1 月 31 日）	15 人

	第 11 回 (2 月 22 日)	
電子物理工学 (電子物性コース) FD 会議(担当者会議)	第 1 回 (4 月 20 日) 学生異動、および既修得単位認定、 教学アセスメント作成について 第 2 回 (5 月 18 日) B4 集中講義の日程確認、卒論・修 論発表について 第 3 回 (6 月 29 日) 学生異動について 第 4 回 (7 月 22 日) B2 コース配属について 第 5 回 (9 月 14 日) 電子物理工学概論 1 単位取得状況、 および学生異動、B2 コース配属の 決定について 第 6 回 (10 月 19 日) 学生異動、および次年度集中講義、 B4 中間発表について 第 7 回 (11 月 16 日) 研究室説明会、講義担当について 第 8 回 (12 月 22 日) 次年度の研究室構成、研究室説明会 (B3 対象) について 第 9 回 (1 月 18 日) 卒論・修論発表、進路相談について 第 10 回 (2 月 15 日) 学生異動、進路相談について * 毎回：成績不良者への対応に関する報告・意見集約	9 人
電子物理工学 (電子物性コース) FD 会議(教室会議)	第 1 回 (4 月 27 日) 第 2 回 (5 月 25 日) 第 3 回 (7 月 6 日) 第 4 回 (7 月 27 日) 第 5 回 (9 月 28 日) 第 6 回 (10 月 26 日) 第 7 回 (11 月 30 日) 第 8 回 (12 月 22 日) 第 9 回 (1 月 25 日) 第 10 回 (2 月 22 日) 上記担当者会議の内容を構成員に共有	28 人
電子物理工学実験 (電子物性コース) FD 会議	第 1 回 (2 月 24 日) 公立大電子物理工学科提供の電子物 理工学実験 1 (なかもず) の実施内容の検討 (今年度分の FD 活動を前年度のうちに実施) 第 2 回 (9 月 28 日) 公立大電子物理工学科提供の電子物 理工学実験 2 (なかもず) の実施内容の検討 第 3 回 (2 月 2 ~ 14 日) 公立大電子物理工学科提供の電 子物理工学実験 2 (なかもず) の評価基準について検討 (メール協議)	8 人 (第 3 回は 9 人)
応用物理学実験 (基礎教育科目) FD 会議	基礎教育科目として工学部内の大半の学科に提供してい る「応用物理学実験」の将来的な運営に関する検討会議 (2 月 20 日)	4 人
電子物理工学 (電子材料コース) FD 会議	第 1 回 (4 月 27 日) 第 2 回 (5 月 25 日) 第 3 回 (7 月 6 日) 第 4 回 (7 月 27 日) 第 5 回 (9 月 28 日) 第 6 回 (10 月 26 日) 第 7 回 (12 月 7 日) 第 8 回 (2 月 1 日) 第 9 回 (2 月 22 日)	16 人

	上記担当者会議の内容を構成員に共有	
電子物理工学実験 (電子材料コース) FD 会議	第 1 回 (7 月 27 日) R6 年度の実験手引書の作成について検討 第 2 回 (9 月 26 日) R6 年度の実験テーマについて検討 第 3 回 (12 月 6 日) 実験テーマについて検討及び移転に伴う実験機材の購入などの検討	9 人
(電気電子システム工 学科) 分野教育改革会議	部局の教育委員会の情報共有し、分野の教育方針の審議などを行う(月例/8 月休会、年 11 回開催)	24 名
(電気電子システム工 学科) 分野教育委員会	分野全体で担当している講義の実施方針に関する打ち合わせ等(月例/4 月・8 月休会。10 回開催。メール開催を含む)	7 名
(電気電子システム工 学科) 実験委員会	分野が担当する実験に関して方針、学生の受講状況などを共有する。(定例/年 3 回開催)	14 名
応用化学科 教育委員 会	公大での新設科目(応用化学概論、応用化学総合演習)に関する実施内容検討 第 1 回 (12 月 22 日) 応用化学概論について今年度の振り返りと次年度の計画について 第 2 回 (1 月 26 日) 応用化学総合演習の実施計画について	12 人/回
応用化学科 教室会議	公大での新設科目及び学科全教員で担当する科目の今年度の実施状況及び次年度の準備状況の情報共有と検討 第 1 回 (7 月 24 日) 前期の履修状況の情報共有と新設科目(応用化学総合演習、構造解析演習)の準備状況について 第 2 回 (12 月 25 日) 後期の履修状況の情報共有と新設科目(応用化学総合演習、構造解析演習)の準備状況について	30 人/回
(化学工学科) 2023 年度第 2 回教室 会議と職員会議(4 月 24 日)	1 年の導入科目である化学工学序論の実施方法の検討と在学生の履修指導、新 2 年生、新 3 年生の数学や物理の履修に問題のある学生を抽出し、学生アドバイザーからの面談報告、新 4 年生の研究室配属後の状況について、博士前期学生の就職状況について、博士後期学生の博士論文についての進捗状況の確認、履修登録に問題のある学生の抽出	16 人
(化学工学科) 2023 年度第 3 回教室 会議と職員会議(5 月 29 日)	教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況の確認、在学生の履修指導、博士前期学生の就職状況について、化学工学序論や化学工学英語演習の実施状況について、博士後期学生の博士論文についての進捗状況の確認、編入学試験の実施状況についての確認、入学時アンケートへの対応	16 人
(化学工学科)	教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状	16 人

2023 年度第 4 回教室 会議と職員会議（7 月 3 日）	況の確認と中間試験の成績不審者について、博士前期学生 の就職状況について、化学工学序論や化学工学英語演習の 実施状況について、編入学試験の実施状況、前期期末試験 に向けての成績不審者の状況確認、学生実験等のレポート 提出状況の確認	
（化学工学科） 2023 年度第 5 回教室 会議と職員会議（7 月 31 日）	教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状 況の確認と成績不審者および多回欠席者について、博士前 期学生の就職状況について、化学工学序論の研究室見学や 化学工学英語演習の成績の付け方について、前期授業の成 績不審者や実験科目のレポート提出状況について	16 人
（化学工学科） 2023 年度第 1 回臨時 教室会議と職員会議 （8 月 23 日）	大学院入試の状況について、大学院 A 群科目の評価につい て、8/29 の工学 FD セミナーへの参加依頼、就職状況につ いて、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合 格者について	16 人
（化学工学科） 2023 年度第 6 回教室 会議と職員会議（9 月 25 日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法に ついて、博士前期学生の就職状況について、前期授業の成 績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況 について、コンタクト教員制度を用いた教員と学部 2 年、 3 年生徒の面談計画について	16 人
（化学工学科） 2023 年度第 7 回教室 会議と職員会議（10 月 30 日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業について、博 士前期学生の就職状況について、前期授業の成績不審者や 実験科目や必修科目の不合格者への面談状況について、4 年次進級が危ぶまれる学生についての面談結果について、 学部編入生に対して、本学域教育内容と単位認定科目間の ギャップを埋めるために入学前に勉強しておくべき範囲 について、博士前期課程学生への大学院博士後期進学・就 職についての説明会について、コンタクト教員制度を用い た教員と学部 2 年、3 年生徒の面談結果について、線形代 数学授業の問題について	16 人
（化学工学科） 2023 年度第 8 回教室 会議と職員会議（11 月 27 日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法に ついて、博士前期学生の就職状況について、3 年次学生の 研究室紹介であるオープンラボについて、成績等のガイダ ンス資料について、3 年次編入生へのガイダンスについて、 学会関連で学生発表会および地方大会について、博士後期 課程学生の博士論文の論文投稿状況について、線形代数学 授業の問題への対応について	16 人
（化学工学科） 2023 年度第 9 回教室 会議と職員会議（12 月 25 日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法に ついて、博士前期学生の就職状況について、オープンラボ の実施報告、卒論・修論・大学院博士前期 1 年学生の中間 発表について、在校生オリエンテーションについて、博士	16 人

	後期課程学生の博士論文の論文投稿状況について、編入学生の単位認定について	
(化学工学科) 2023年度第10回教室 会議と職員会議(1月 29日)	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法について、2024年度学生必携PCの部局独自スペックについて、卒論と修論発表会の配布要旨の取扱いについて、博士後期課程学生の博士論文提出・査読状況について	16人
(化学工学科) 2023年度第2回臨時 教室会議と職員会議 (2月14日)	2024年度授業の実施方法について、2043年度学生必携PCの部局独自スペックについて、後期授業の成績不審者や実験科目のレポート提出状況について、卒論と修論発表会について、大学院博士前期1年学生の中間発表の表彰について、博士後期課程学生の公聴会について、2024年度化学工学序論の内容について	16人
(化学工学科) 2023年度第11回教室 会議(2月26日) 2023年度第12回教室 会議(3月25日)	教務委員会／教育運営委員会報告、前期授業の実施方法について、2023年度学生必携PCの部局独自スペックについて、新入生ガイダンスについて、卒論と修論発表会の配布要旨の取扱いについて、博士後期課程学生の博士論文提出・査読状況について、化学工学序論にすすめかたについて、学生アドバイザーによる1年次、2年次生への個別ガイダンスについて、3年次で進級できない学生へのケア、3年次編入学生への履修指導について	16人
マテリアル工学・ 2023年度教室会議	第1回(4月26日) 大学院入学者報告、大阪府立狭山高等学校への講師派遣について、副指導教員制度について 第2回(5月24日) FD活動の取り組みについて、研究室学生に配置換えについて、分野講演会について 第3回(7月5日) ランキング対策に関する検討、大学院履修登録について 第4回(7月26日) 大学院入試実施状況について、副指導教員制度の実施状況について 第5回(9月27日) 博士後期学位申請予定者について、工学FDセミナーの動画視聴依頼、広報に関する依頼 第6回(10月25日) QS世界大学ランキングの評判調査への協力依頼、博士前期課程英語コース提供について、学生実験室の問題について 第7回(11月29日) 講義担当者について、学生実験の担当者および内容について 第8回(12月26日) 大学院入試博士後期課程の出願者について、大学院科目の廃止と新設について 第9回(1月24日) 学校推薦型選抜の変更点について、非常勤講師について、研究・国際化ロードマップについて	12人／回
化学バイオ工学科FD	化学バイオ工学科FD集会(11月21日)にて、以下の項目	20人

集会	について確認および討議を行った。 1. 入試の状況に関して 2. 入試形態と入学後の成績に関して 3. GPCの平均と標準偏差に関して 4. 卒業・修了時アンケートおよび入学時アンケートに関して	
化学バイオ工学分野 会議	・第1回分野会議（4月25日）にて、学生の履修について確認および討議した。 ・第2回分野会議（5月23日）にて、学部・大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第3回分野会議（7月5日）にて、学部・大学院入試について確認および討議した。 ・第4回分野会議（7月25日）にて、学部・大学院入試、授業カリキュラムについて確認および討議した。 ・第5回分野会議（8月24日）にて、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第6回分野会議（9月19日）にて、大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第7回分野会議（10月25日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第8回分野会議（11月21日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第9回分野会議（12月26日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第10回分野会議（1月23日）にて、学部カリキュラム、修士論文発表会、卒論発表会、学生の動向について確認および討議した。 ・第11回分野会議（2月28日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラム、学生の動向について確認および討議した。 ・第12回分野会議（3月26日）にて、大学入試、学生の動向について情報共有および討議した。	20 人
量子放射線工学分野 FD 会議（月一回）	専攻提供の講義の実施内容の検討と計画、及び学生の研究 状況取り組み状況の報告など FD に関する議論	12 人
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
（工学全体） ・2023 年度に入学した学部生および大学院生を対象に入学時アンケートを実施し、本学で身につけたい能力や将来取得したい学位など幅広い項目で調査を行なった。結果は工学部内で共有した。 （航空宇宙工学科、航空宇宙工学分野） ・新入生オリエンテーション、学年ガイダンス		

- ・授業評価アンケートの実施と授業改善の検討
- ・卒論発表優秀賞、および修論発表優秀賞、修論アイデア賞の選出

(海洋システム工学科、海洋システム工学分野)

- ・卒業研究ループリックの確認および、その評価方法に対する意見聴衆を行った。多くの教員が評価を行う「海洋システム工学実験」への展開の検討を行う。
- ・2024年度以降の「海洋システム工学機械工作実習」について、外部企業の協力のものと学外での実習を含める形の内容に決定した。
- ・旧カリキュラムと新カリキュラムの接続について協議し、内容の微調整および担当者の変更等を協議し決定した。
- ・入学区分や学年ごとの成績データを解析し、学生動向や成績動向について調査した。
- ・外部評価試験結果 (StudentEQ 等) と成績および教育プログラムとの関係を分析した。

(機械工学科、機械工学分野)

- ・3年生に進級時のコース分けの方法と受講科目について協議した。(中百舌鳥)
- ・アドバイザーを中心に成績不振者に対して履修指導を行った。(中百舌鳥)
- ・半期ごとに、学年相談委員が成績不振者と面談し、学習相談や履修指導を行った。(杉本)
- ・特に注意が必要な学生については、専攻会議にて状況を共有した。(杉本)
- ・新4回生の研究室への配属方法について再検討を行い、配属方法への変更について学生への説明会を実施した。(杉本)

(建築学科、建築学分野)

- ・月1回程度開催される学科会議において、学生の就学状況に関する情報を共有し、必要な場合には対策について協議・検討を行った。
- ・学年横断型の設計課題講評会 (Vertical Review) を、公大建築会議と併せて前後期各1回開催した。
- ・外部講師を招いた講評会において卒業設計最優秀賞を授与した。(2/21)
- ・学科での卒業証書授与式において、建築学科賞 (論文) および建築学科賞 (設計) をそれぞれ授与した。(3/22)
- ・学科 OB・OG による職業ガイダンスを実施した。

(都市学科、都市学分野)

- ・月1回程度学科会議を開催し、各学年の学生の履修状況を随時確認した (学生アドバイザーによる)。
- ・臨時学科会議の開催による学科再編について議論した。
- ・学科教務委員会による完成年度以降の教員の移動に伴うカリキュラム再編方針案について学科会議において議論した。
- ・B3、M1 向けに都市学科関連業界の説明会を 10/26、11/30、12/14 に実施した。

(電子物理工学科、電子物理工学分野)

○共通

- ・カリキュラムオリエンテーションを利用して、新入生が大学生活を滞りなくスタートできるように、新入生向けの導入研修を実施した (4月2日実施)。
- ・学部生、院生 (M、D) 向けのオリエンテーションを実施し、大学生活および単位修得に関する注意喚起を行った (4月2、3日実施)。
- ・教室会議において、入学試験及び入学時アンケートの情報を共有した。

- ・特に「電子物理工学概論 2」では 1 年生の意識調査に関するアンケートを実施し、学科内で共有した。アンケート結果を基にして、次年度はより充実した講義にするための意見交換を行った。また、「電子物理工学概論 1、 2」の成績を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。

- ・工学 FD セミナー等の学内 FD セミナーに参加した（詳細は 7. で説明）。

○電子物性コース

- ・講担会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・前期・後期に実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・特に M2 怠惰学生に対する指導ルールの厳密に設定した。
- ・教育 PDCA サイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し、講担会議・教室会議（各 10 回）を通して、解決に向けた検討を行った。本活動報告の提出後、本年度の活動に対して学外チェック委員からコメントをいただき、これを 3 月の講担会議・教室会議で共有した。
- ・大学コンソーシアム大阪主催「高大連携フォーラム」を企画した（1 名 2 回）。
- ・電子物理工学実験 I、 II について、出席・レポート提出状況を担当教員以外も参照できるようにすることで、主任や学年アドバイザーの教員等が適宜サポートできる体制を整えた。
- ・大学院講義において海外からの特別履修生対象に、講義内容の理解を助けるための英文の補足資料を作成して提供した。最終レポートの記述内容より講義理解に有効であったことが確認できた。
- ・アセスメントシートに基づく点検について講担会議および教室会議で情報共有・意見交換を行い、点検内容に問題がないことおよび実効性が伴っていることを確認した。

○電子材料コース

- ・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・前期・後期実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・電子・物理工学実験 I で開講するテーマ「研究開発実務研修」での工場見学先を実験科目担当教員全員で協議し、電子物理工学にかかわりの深いローム株式会社を訪問先として決定した。
- ・電子・物理工学実験 I の成績講評を実験科目担当教員全員で行い、情報を共有した。
- ・R6 年度の電子物理工学実験 2（電子材料）の学習向上のための実験テーマの検討を行った。

（電気電子システム工学科、電気電子システム工学分野）

- ・大学の実施する学生アンケートを学科独自で集計を行い、教員間で共有した。

（府大電気電子システム工学課程）

- ・3 年生後期の実験科目のまとめとして成果発表会を実施した。実験担当以外の教員も参加し、実験担当者以外の視点からのコメントを行った。コメントは学生がレポート内にまとめることで実験担当者が共有した。
- ・3 年生に研究室の雰囲気を知ってもらい、研究室配属先選択の一助とするため 12/4～8 に分野全研究室の研究室見学会(オープンラボ)を開催した。
- ・3 年生に配属希望研究室の研究内容を知ってもらうため、M1 科目の特別演習第 2 で実施するポスター発表会を 3 年生の実験科目の中に組み込んだ。

（市大電気情報工学科）

- ・3 年生の研究室先行配属のために、市大・電気情報工学科教員全員での会議を開催し、成績確認・配属方法・配属候補学生の検討を行った。

(応用化学科、応用化学分野)

- ・実験科目については、従来から行っている 1 年次の基礎化学実験の担当に学科から教員を出すことによって入学直後の学生の化学に関する理解度を把握し、2 年次以降の応用化学実験につなげるための学科内での情報共有を行っている。
- ・演習科目については、教科書の問題を用いて行っていた科目と自前で作成した問題を使用していた科目があったが、今年度からすべての演習科目で講義科目での理解度を踏まえた自前で作成した問題とすることによって、講義科目で理解度が低かった内容に関する理解度を高めることを行った。

(化学工学科、化学工学分野)

○学部・課程

- ・化学工学科（1 年生）および化学工学課程（2-4 年生）では、4 月および必要な時期に、学年ごとにとりまとめたガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開き、学生の履修相談等に積極的に助言を与える。
- ・授業の履修や学生生活における相談窓口として、学生アドバイザーに加え、いつでも教員と相談できるコンタクト教員制度を導入し、修学・進路・家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。
- ・毎月授業の履修・出席状況を確認し、教室会議終了後の職員会議で報告し、学生アドバイザーやコンタクト教員による対応など、問題解決のための協議をする。
- ・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取り組みを続ける。
- ・教育の内部質保証を目指して、2021 年度から、化学工学に関する外部試験の受験を奨励しており、学卒の程度の化学工学に関連した専門的应用能力を持っている「技術者」「研究者」を対象にした、「化学工学技士（基礎）」の受験を今年度も学域卒業予定者推奨し、その合格率や平均点などを今後の教育に反映する。

○大学院

- ・博士前期課程および博士後期課程のすべての学年に対して、ガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開き、学生の履修相談、研究の進捗などに積極的に助言を与える。また、大学院博士後期課程進学における経済的なサポート状況などの大学や工学研究科の制度などを詳しく説明する説明会を開催する。
- ・就職など分野独自の説明会を開き、修学・進路についての相談を受け付ける。
- ・指導教員のみならず分野長、副分野長、教務委員などが、家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。
- ・毎月授業の履修・出席、研究室での研究の進捗状況を確認し、教室会議終了後の職員会議で報告し、研究指導教員による対応など、問題解決のための協議をする。
- ・大学院の博士後期課程学生の博士研究の進捗状況を分野全教員で共有する。
- ・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取り組みを続ける。

(マテリアル工学科・マテリアル工学分野)

- ・学科／分野内 FD 活動計画・進捗などについて議論するため、ワーキンググループを編制した。
- ・毎月開催される教室会議内で成績不振者への対応など学科の FD 全般について議論した。
- ・学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、定期的な面談を行い、精神的なケアを含む研究指導

のサポートを行った。

- ・アクティブラーニング等を取り入れた新しい授業形態について情報共有した。
- ・全学／工学 FD セミナーへの参加を呼び掛けた。
- ・教員人員構成の変化に対応し、講義担当者、講義科目および内容の見直しを行った。
- ・国内外から著名な研究者を招き講演会を開催し、最先端の研究内容について学ぶ機会を設けた。

(化学バイオ工学科、化学バイオ工学分野)

- ・1-3 回生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を行った。4 回生および大学院生に対しては、所属研究室の研究指導教員が適宜対応した。
- ・月 1 回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(量子放射線系専攻)

- ・学内外で開催されている放射線教育関連の催し等の機会を通じて中学・高校教員等の意見交換し、その中で得られた情報を上記 FD 会議で共有し、その成果を分野の教育活動に役立てた。

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

(工学全体)

提供を受けた専門科目の GPC を、公大科目、市大科目、府大科目に分類し、各学科・分野・専攻ごとに GPC の平均と標準偏差を算出した。集計結果を公大工学教務委員会で説明した。さらに各学科・専攻で共有することで各授業担当者の採点時の参考にしていただいた。

(海洋システム工学科、海洋システム工学分野)

- ・GP 分布等の成績情報を元に、府大生、公立大生および入試区分の違いによる成績の差異の分析を行った。

(機械工学科、機械工学分野)

一部の基幹教育科目においてクラス間で GPC の差が大きいことが判明したため、改善要求を出した。

(都市学科、都市学分野)

- ・市大生の成績状況および取得状況を踏まえた旧カリキュラムの継続方針について学部教務委員より学科会議で報告を行った。

(電子物理工学科、電子物理工学分野)

- ・物理系の基礎教育科目について GPC データの分析を行い、クラス間で大きな問題がないことを確認した。
- ・電子物理工学科 学年間の修学状況の差を把握するため、各学年について GP 分布を調査した。
- ・特に学部 1 年生については、「電子物理工学概論 1、 2」の成績を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・電子物理工学科内のコース配属 (学部 2 年生) において一部 GP データを活用した。配属後のコース毎の GP 分布を調査した。

(電気電子システム工学科、電気電子システム工学分野)

杉本・中百舌鳥キャンパス所属教員の統合、および、今年度末からほぼ毎年定年退職する教員がでることにより担当講義科目の変更が予定されるため、担当教員の変更により成績評価に大きな変化がないように GPC の記録を残し分野内で共有する。

(化学バイオ工学科)

半期ごとの GPA 分布の推移と入学時の入試方法との関係について調査し、学科の FD 集会で報告し討議した。また、学年ごと(2022 年入学生、2023 年入学生)の成績分布の違いについて調査し、報告した。

6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数〔実数〕(必ずご記入ください)

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (253) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (261) 人

7. その他、追記事項

(航空宇宙工学科、航空宇宙工学分野)

・航空宇宙工学科では、編入学試験問題作成委員会を組織し、各年度の試験問題について検討している。航空宇宙工学分野では、大学院入試委員会(専門基礎/専門科目作成委員会)を組織し、各年度の大学院入試問題および入試全般に関して検討している。

(電子物理工学科、電子物理工学分野)

○電子物性コース

- ・講担当会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績(GP)を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。

○電子材料コース

- ・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績(GP)を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・旧市大生向け電子・物理工学実験Ⅱの成績講評を実験科目担当教員全員で行い、情報を共有した。

○セミナー等の参加状況

2023.05.12 ChatGPT と大学教育 - 対話型 AI が教育現場にもたらすインパクトと対応策 参加 5 名

2023.05.18-20 令和 5 年度入研協大会(第 18 回) 主催:大学入試センター 参加 1 名

2023.07.31 全学 FD セミナー「大学院生のキャリアデザイン支援を考えるー文学・理学など基礎系研究分野の支援事例を中心にー」 参加 4 名

2023.08.01 エルゼビアによるオンライン講習会「研究発信のインパクトを高めよう!良い論文の書き方と研究インパクトの調べ方」 参加 9 名

2023.09.12 全学 FD 研究会「大阪公立大学における FD のあり方について考える(2)」 参加 15 名

2023.10.30 2023 年度第 1 回高大連携フォーラム「生成 AI 時代の教育を考える」(主催:大学コンソーシアム大阪) 参加、大学コンソーシアム大阪・高大連携推進委員会・委員長として企画から従事 1 名

2023.11.27 全学 FD「初年次ゼミナール実践事例共有会」 参加 1 名

2023.12.01 「大学院教育改革フォーラム 2023」 参加 1 名

2023.12.13 第 2 回教育改革フォーラム「大学における生成 AI の活用について考える」 参加 9 名

2024.02.29 2023 年度第 2 回高大連携フォーラム「生成 AI 時代の教育を考えるー高大接続を見据えた高等学校におけるデータサイエンス教育実践ー」(主催:大学コンソーシアム大阪) 参加、大学

コンソーシアム大阪・高大連携推進委員会・委員長として企画から従事 1名

2024.03.04 高大接続セミナー『高校教育の変化と展開：「総合的な探究の時間」と大学教育との接続』 主催：大阪公立大学高等教育研究開発センター 1名

オンデマンド アクセシビリティセンター研修 参加3名

オンデマンド アンコンシャスバイアス研修 1名

(電気電子システム工学科、電気電子システム工学分野)

月例の分野教育改革会議で Plan、Act を回すことにより、教育に課題が生じた際に迅速な対応ができるようにしている。

学生に大学院後期課程進学後のキャリア例を示すため企業出身の先生および後期課程から企業に就職したOBを招き、電シスの主催でキャリアセミナーを開催した(12月15日開催)。これに合わせ、新入生(コロナ禍で開催できなかったためB2も含めた)に向けて各研究室大学院生による研究室紹介を行った。

(化学工学科、化学工学分野)

- ・学部や課程のGPAの値と1-2回生配当の数学や物理学、化学の単位取得状況と成績との相関や微積分学や線形代数学、常微分方程式のCまたはD判定学生の2年次以降の専門科目成績との相関関係などを分野内委員会の内部質保障委員会でメール審議し、専門科目である移動速度論や数学演習を担当する教員と共有し、授業の理解不足や成績不振者の指導に活かす取り組みをしている。
- ・GPAの低い学生を重点的に面談し、成績不振者とGPAの関係から学生指導につなげられないか検討を開始する。また、総単位数との相関も見る。

農学部・研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)

- ・各学科・専攻の会議にて、学部/研究科教育運営委員が主体となってFD活動を実施した。
- ・学部・研究科の教員および学生を対象としたセミナーは農学セミナーとし、周知した。

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容(タイトル)	参加者数(教員)
4月7日(金)	シンポジウム(SDGs 駆動型都市農業×情報学/横井修司・公立大)	80
4月26日(水)	農学セミナー1(シロイヌナズナのホウ素輸送体NIP5;1のホウ素に応答した転写と翻訳の協調的な制御機構/田中真幸・公立大 特任研究員)	24(8)
4月26日(水)	Technology Innovation Institute(UAE)の研究者との交流/岡澤敦司・公立大	1(1)
5月22日(月)	農学セミナー2(植物における小胞体以降のタンパク質品質管理の可能性/長島幸広・Texas A&M ポスドク)	15(5)
6月9日(金)	農学セミナー3(種子タンパク質のシグナルペプチドの切断位置に変異を導入したシロイヌナズナの解析/小泉望・公立大、種子タンパク質を指標にしたシロイヌナズナ膜交通変異体の単離と発芽時の成長異常の解析/嶋田知生・(京都大)、大	30(10)

	豆種子タンパク質の特性/丸山伸之(京都大)、イネ種子貯蔵タンパク室の合成・蓄積機構の解析と有用タンパク質生産/増村 威宏(京都府大)	
6月30日(金)	オープンセミナー(植物の機能性成分含量と防御応答ー遺伝子発現制御による高蓄積化の可能性ー/山口タ・公立大)	30
7月31日(月)	FD セミナー(「大学院生のキャリアデザイン支援を考えるー文学・理学など基礎系研究分野の支援事例を中心にー」) https://www.omu.ac.jp/las/highedu/info/topics/entry-32790.html	不明(農学教員は1)
8月3日(木)	農学セミナー5(イネのケイ素研究の新展開/山地直樹/岡山大)	37(2)
9月28日(木)	シンポジウム(植物微生物研究会特別講演-極域の植物病原微生物の種類や生態から見えてくるもの/東條元昭・公立大)	100(5)
10月27日(金)	農学セミナー6(気候変動適応とスマート農業の視点から考える稲作水管理/坂田賢・公立大)	100(2)
12月15日(金)	シンポジウム(ウイルスの利用に向けて～卵菌ウイルスの探索と宿主菌への影響～/望月知史・公立大、微生物で地球を冷やす～温暖化ガスを分解する土壌微生物～/今泉温子・農研機構、生物農薬技術の開発ー企業の取り組みー/森光太郎・石原産業、紙一重で菌は植物の敵にも味方にもなる～糸状菌の共生・寄生戦略の多様性・連続性～/晝間敬・東京大)	150
12月15日(金)	シンポジウム(ウイルスの利用に向けて～卵菌ウイルスの探索と宿主菌への影響～/望月知史・公立大、微生物で地球を冷やす～温暖化ガスを分解する土壌微生物～/今泉温子・農研機構、生物農薬技術の開発ー企業の取り組みー/森光太郎・石原産業、紙一重で菌は植物の敵にも味方にもなる～糸状菌の共生・寄生戦略の多様性・連続性～/晝間敬・東京大)	150
2月24日(土) 3月2日(土)	オープンセミナー(ランドスケープからの都市再編/小松良朗・(株)日建設計)	15(3)
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(※月※日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
農学部教務委員会	第1回(6月30日) 転学部・転学科の各学科受入年次について、他	8

	第2回(9月29日)学位授与日の統一について、他 第3回(1月17日)履修課程表のカリキュラム変更について、他	
農学研究科教務委員会	第1回(6月30日)再入学について、他 第2回(9月29日)単位修得退学となる条件について、他 第3回(1月17日)博士前期課程の入学定員増加について、他	8
応用生物科学科/専攻会議	第1回(4月28日)学生へのコンプライアンス教育の検討、他 第3回(6月30日)転学部・転学科の受け入れ, 再入学, 早期卒業について、他 第4回(7月28日)大学院の定員についての検討、他 第6回(9月29日)実習実験科目の欠席の取り扱いについて、他 第7回(10月27日)大学院の定員についての検討、他	24
生命機能化学科/専攻教授会	第1回5月11日 新入生に関する教育についての検討 第2回6月8日 専攻学生教育に関する検討 第3回7月6日 専攻学生教育に関する情報交換 第4回8月3日 効率的な教員配置に関する検討 第5回9月13日 効率的な教員配置に関する情報共有 第6回10月12日 効率的な教員配置に関する検討 第7回11月9日 専攻学生教育に関する検討 第8回11月29日 専攻学生教育に関する検討 第9回12月18日 専攻学生教育に関する検討 第10回2月7日 専攻学生教育に関する検討	9
生命機能化学科/専攻学生実験担当者会議	第1回8月2日 2024年度TA要求について 第2回2月21日 TAの有効な配置に関する検討	11
緑地環境科学専攻会議	2023年4月28日 教学アセスメントリスト, GPCを参考にした授業改善に関する検討	23
緑地環境科学科実習演習検討WG	4月1~5日 新規実習科目(緑地環境科学実習演習基礎A)の実習書の作成 4月1~11日 新規実習科目(緑地環境科学実習演習基礎A)の実施方針の精査 4月12日 合理的配慮が必要な学生への対応方針の検討 5月23日 合理的配慮が必要な学生への対応の経過報告 6月16日~6月30日 シラバスチェック結果への対応検討 8月4~18日 2023年度TA配置計画の検討 8月6~9月4日 提出課題における不正行為への対応	10

	8月20～25日 「教育研究のための生態展示設備の整備および自動監視システムの構築事業」の検討（2023年度学長部局重点予算追加募集） 8月23日～9月20日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習基礎B）の実習書の作成 9月7～13日 実習内容の高度化と効率化を図るための機器整備計画の検討（2024年度新規・重点予算要求） 9月14日 第1回実習演習WG（対面実施）の開催（前期総括） 11月21日 第2回実習演習WG（対面実施）の開催（実習機器の整備計画の検討、実習科目の代表教員の配置検討）	
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
・応用生物科学科では以下の授業アンケートを独自に実施した：基礎微生物学（受講者 57 名、10 回実施、回答数 536/570 回収率 94%）、植物病理学（受講者 57 名、ほぼ毎回実施、回答数 671/741 回収率 91%） ・生命機能化学科では、複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。 ・緑地環境科学類では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物形態分類学（回答数 58/59、回収率 98%）、緑地環境科学実習演習（回答数 51/54 件、回収率 94%）、水理学（受講者数 36 名、授業毎のアンケートの平均回答率 95%/授業全体のアンケート 32/36 名、回答率 89%）、水環境管理学（受講者数 16 名、講義毎に実施、平均回答率 96%）、緑地環境科学実習演習入門 B（受講者 52 名、回答者 51 名、一部の授業で実施、平均回答率 98%）、生態環境計測学（回答数 40/44 名、回答率 91%）、生物生産工学（受講者：25 名、定期試験の前週に実施、回答者 16 名、回答率 64%）、動物形態分類学（受講者：54 名、定期試験の前週に実施、回答者 50 名、回答率 93%）、動物昆虫管理学（受講者：46 名、定期試験の前週に実施、回答者 41 名、回答率 89%） ・緑地環境科学類研究グループ説明会（2 年生対象、12 月 18 日・20 日）51 名中 50 名参加 ・緑地環境科学類研究グループ分属に関する意識調査（2 年生対象 12 月 20 日）、51 名中 35 名回答 ・内部質保証の取り組みに活用するため、外部アセスメントテストを緑地環境科学科 1, 2 年生、緑地環境科学類 3 年生のそれぞれ約 90%に実施した（2 年連続の 1 年目）。2024 年 3 月 1 日（予定）に開催する学科/専攻会議で結果を共有し、議論を行う。		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
・応用生物科学科/専攻: 2024 年 3 月 7 日に開催した学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。大学院の一部の科目で高い AA 比率が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。 ・生命機能化学科/専攻: 2024 年 3 月 6 日に開催の学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で高い AA 比率が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。 ・緑地環境科学科/専攻: 成績 GP 分布および GPC データをグラフ化して分析し、共有した。大学院では AA の増加傾向が見られたが、学部では変化がなかった。2024 年 3 月 1 日に開催した学科/専攻会議で問題点について議論を行った。		

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください） ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 69 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 69 ）人
7. その他、追記事項 ・高等教育研究開発センター会議への出席（平井規央教授・月1回） ・アクセシビリティ支援委員会会議への出席（稲田のりこ教授・2023年中8回）

獣医学部・研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 「授業振り返り（授業アンケート）」への教員コメントの入力を推進した。 - 学部（学類）生（1～4回生）の単位修得状況を保証人へ連絡するとともに、成績を把握することで学生に対する個別指導に役立てた。 - 複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。 - 卒業研究の実施内容等の改善のため、教員会議および委員会で議論を行い、その情報を全教員で共有した。 2023年度のGPC成績一覧表を教員間で共有し、最適化に向けて情報共有を行った。 - 著名な研究者を招聘し、獣医学専攻教員・学生の知識向上のための集談会を実施した。 - 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの飼い主様への対応を向上させるための研修を実施した。 - 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの臨床技術を向上させるためにOPUVMCセミナーを実施した。 - 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して生命倫理と安全管理に関する研修を実施した。																	
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容（タイトル）</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月30日</td> <td>第19回サイエンスカフェ at りんくう「Stem Cell Research in Veterinary Medicine（獣医療における幹細胞研究）」Dr. Amir Kol（カリフォルニア大学デイビス校獣医学部）</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>6月24日</td> <td>医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>9月12日</td> <td>第2回FD「複数の担当教員による成績評価のバラツキから学べること」東泰孝先生（本学獣医学研究科）</td> <td>300人</td> </tr> <tr> <td>11月25日</td> <td>医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際</td> <td>40名</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	内容（タイトル）	参加者数	5月30日	第19回サイエンスカフェ at りんくう「Stem Cell Research in Veterinary Medicine（獣医療における幹細胞研究）」Dr. Amir Kol（カリフォルニア大学デイビス校獣医学部）	30名	6月24日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40名	9月12日	第2回FD「複数の担当教員による成績評価のバラツキから学べること」東泰孝先生（本学獣医学研究科）	300人	11月25日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際	40名
開催日	内容（タイトル）	参加者数															
5月30日	第19回サイエンスカフェ at りんくう「Stem Cell Research in Veterinary Medicine（獣医療における幹細胞研究）」Dr. Amir Kol（カリフォルニア大学デイビス校獣医学部）	30名															
6月24日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40名															
9月12日	第2回FD「複数の担当教員による成績評価のバラツキから学べること」東泰孝先生（本学獣医学研究科）	300人															
11月25日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際	40名															

	のスーパーバイザーに関する研修)	
11 月 17 日	第 20 回サイエンスカフェ at りんく「バイオインフォマティクスを駆使し、動物由来ウイルス感染症を監視する」川崎 純菜 先生（早稲田大学）	20 名
1 月 19 日	獣医学研究科集談会 「ヒトとイヌの共生とその互惠性について」菊水健史 先生（麻布大学獣医学部）	30 名
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日（複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」「第 2 回…」と記載）	委員の人数
学部・学類教育運営委員会	カリキュラムおよび授業実施方法等に関する検討（2024 年 2 月 15 日）	8
CBT 運営委員会	CBT の実施および運営等に関する検討（2024 年 2 月 7 日、メールによる検討は 15 回以上）	7
図書委員会	図書委員会を 2 回開催し、運営状況の確認、利用促進法等の協議（2023 年 7 月 7 日、2023 年 9 月 20 日）	6
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
特になし。		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
2023 年度の GPC 成績一覧表を教員間で共有し、その目的や意義等を再度、説明し、最適化に向けて情報共有を行い、改善について意見交換を行った。		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）		
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （44）人		
・所属内の専任教員の人数 （44）人		
7. その他、追記事項		
・卒研検討委員会（委員 9 名）にて、5 月の獣医学演習の実施、そして 12 月の卒業研究発表会および学生の発表内容等について改善を図るために意見交換と討議を行い、その内容を教員会議で情報共有を行った。（1 年間で数十回程度の打ち合わせを実施）		
・OSCE 委員会（委員 16 名）では、2023 年度の OSCE 本試験の実施およびこれに向けた実習の改善と審査を担当する教員の訓練の実施等について、検討を行った。具体的には、主に委員長と 4 分野の責任者間でメールや電話連絡による打合せと情報共有を行った（1 年間で数十回程度の打ち合わせを実施）。また、これ以外にも、各試験分野の実施内容について分野責任者が全大学の責任者と直接やり取りし、委員会で情報共有を行った。		

医学部医学科・医学研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）
教育活動等について講演する FD 講演会を年 4 回実施している。
ワークショップ形式により医学教育について涵養する FD-WS を年 2 回実施している。

2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 6 月 5 日（月） 17:30～18:30	2023 年度 第 1 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2021 受賞講演】 「私が画像診断で教えている事 ～M5 クリニカルクラークシップを中心に～」 放射線診断学・IVR 学 下野 太郎 准教授 ○「“教育”のための外部資金」 研究推進課 中出 颯 係長 ○「医学教育のトピックス ー共用試験法制化と 2 度目の認証評価受審についてー」医学科長/教務委員長/総合医学教育学 首藤 太一 教授	251 人
2023 年 6 月 24 日(土) 13:00～17:00	第 10 回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会「ワークショップとは？」 おしながき スタッフ紹介 13:10 【W1】 教育：困っていること 13:50 【D1】 全体発表 14:10 【W2】 卒業時目標設定&ロードマップ作製 14:55 【D2】 全体発表 15:20 休憩 15:30 【L】 学生評価と学習の種類 15:50 【W3】 学生評価 16:25 【D3】 全体発表 16:45 【D4】 振り返り 16:50 閉会実績証贈呈、集合写真撮影 【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション	46 人
2023 年 9 月 7 日（水） 17:30～18:30	2023 年度 第 2 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2022 受賞講演】 「医学教育学で感じたつながり」 総合医学教育学/IR 室 栩野 吉弘 准教授 ○「IR 室便り」IR 室 岡田 明子 研究補佐 ○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「医学研究推進コースでの取り組み」 教務副委員長/細菌学 金子 幸弘 教授	202 人
2023 年 12 月 2 日（土） 13:00～17:00	第 11 回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会 「ワークショップとは？」 おしながき スタッフ紹介	40 人

	13:10 【W1】 教育：困っていること 13:50 【D1】 全体発表 14:10 【W2】 卒業時目標設定&ロードマップ作製 14:55 【D2】 全体発表 15:20 休憩 15:30 【L】 学生評価と学習の種類 15:50 【W3】 学生評価 16:25 【D3】 全体発表 16:45 【D4】 振り返り 16:50 閉会 実績証贈呈、集合写真撮影 【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション	
2023 年 12 月 5 日(月) 17:30～18:30	2023 年度 第 3 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2022 受賞講演】 「卒業生・教員の立場から今後の医学部教育について思 うこと」公衆衛生学 松浦 知香 助教 ○「Teaching is Learning～学生サークルの取組み～」 医学部医学科 5 年/臨床手技サークル代表/感染症勉強 会 ILOHA 学生代表 杉本 喜恵 ○「私の免疫学」ゲノム免疫学 植松 智 教授	234 人
2024 年 3 月 7 日 (火) 17:30～18:30	2023 年度 第 4 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2022 受賞講演】「解剖 学における私の医学教育～私が想うこと、実践してい ること～」機能細胞形態学 松原 勤 准教授 ○【シリーズ：講義・実習の新しい形】「手術手技からみ た解剖実習への取り組み」耳鼻咽喉病態学 角南 貴司 子 教授 ○【シリーズ：医学教育分野別認証評価】「JACME 2 度 目の受審に向けて」医学科長/教務委員長/総合医学教育 学 首藤 太一 教授	182 人
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (* 月 * 日) ～について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組 (但し、成績 GP 分布関連は次項に)		
特になし。		

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）
GPC データをカリキュラム評価委員会で開示し、その目的や意義等を説明し、最適化に向けて情報共有を行い、改善について意見交換を行う予定である。
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (245) 人
・所属内の専任教員の人数 (262) 人
※2024 年 3 月 1 日時点、病院講師を除く
7. その他、追記事項
特になし。

医学部リハビリテーション学科・リハビリテーション学研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
部局 FD の検討・実施体制は、部局教務委員会内に設置している。委員の構成は、羽曳野学生グループ教務担当事務 4 名、理学療法学専攻教員 2 名、作業療法学専攻教員 2 名の合計 8 名である。委員会は、月 1 回の頻度で開催し、学内セミナーの周知、カリキュラム、シラバス記載方法の周知、GPC 分布確認などを中心に論議している。委員会での審議および報告事項は、部局教授会を通し、各専攻にて周知している。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 5 月 20 日 13 時	第 1 回臨床実習指導者会議（臨床施設参加 34 名、教員 12 名）	46 名
2023 年 5 月 20 日 15 時	第 2 回臨床実習指導者会議（臨床施設参加 20 名、教員 12 名）	32 名
2023 年 7 月 3 日	第 3 回臨床実習指導者会議（臨床施設参加 16 名、教員 12 名）	28 名
2023 年 10 月 28,29 日	臨床実習指導者講習会（受講者 37 名、運営 18 名）	55 名
2023 年 3 月 8 日	第 4 回臨床実習指導者会議（臨床施設参加 22 名、教員 12 名）	34 名
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
部局教務委員会	月 1 回(水曜日) カリキュラム、評定、シラバスなど	8 名
理学療法学専攻会議	週 1 回(月曜日) カリキュラム、評定、シラバス、実習、 国家試験など	12 名
作業療法学専攻会議	週 1 回(月曜日) カリキュラム、評定、シラバス、実習、 国家試験など	12 名
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
1) 臨床実習指導者講習会大阪府養成校協議会 2023 年度第 1 回総会への参加（2023 年 7 月 20 日; 3 名）		
2) 全国リハ学校協会 臨床実習指導者講習会に関する説明会への参加（2023 年 9 月 20 日; 1 名）		
3) 第 3 者評価		
理学療法学専攻および作業療法学専攻では、一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構		

(http://jcore.or.jp/) によるリハビリテーション教育施設の教育の質を保証するための第3者評価を受け、一定の水準を満たしていると認められている(2023年度更新)。さらに、作業療法学専攻では、世界作業療法士連盟(World Federation of Occupational Therapists: WFOT) 認定校の認可を受けており、2023年度に認可更新された。		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
部局教務委員会にて、全科目の分布を確認し、教授会にて報告後、理学療法学専攻および作業療法学専攻会議で周知した。2022年度は、GPC「4」が数科目存在したが、2023年度は修正された。特に、「AA」の基準は履修学生全体の30%になるよう、試験・レポート課題等のレベルを徹底するよう周知した。 【検討課題】 レポート課題においては、ループリック評価が浸透しておらず、次年度の課題として検討する。 GPCが極端に低い科目(非常勤)があったため、非常勤にも周知が必要である。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (24) 人 ・所属内の専任教員の人数 (24) 人		
7. その他、追記事項		
1) 2022年度の内部質保証スタートアップ事業(学外実習デジタルトランスフォーメーションの構築) 理学療法学専攻と作業療法学専攻の代表教員3名にて、会議を5回開催した。 2) 履修証明プログラム 大学院において履修証明プログラム「地域リハビリテーション学コース」を開講している。事務局2名、リハビリテーション学研究科教員4名の合計6名体制で実施している。受講生は、学部の卒業生をはじめ、他大学の教員、臨床の理学療法士・作業療法士である。2023年度には11期生を迎え、10期生までの総修了生人数は、314名である。		

看護学部・研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください) 実施体制：看護学部FD委員会(4名、河野あゆみ委員長、森本明子副委員長、細名水生、伊藤良子)		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
7月5日	第1回ジャーナル・カフェ テーマ「糖尿病者の拘束性・閉塞性肺機能障害発症リスク及び関連する要因」 話題提供者：園田奈央准教授(看護情報学)	39名
8月2日	第2回ジャーナル・カフェ テーマ「セクシュアルヘルス介入に“快楽”を含めることの付加価値とは」 話題提供者：和木明日香准教授(ウィメンズヘルス科学)	25名
9月19日	ハラスメント防止研修 話題提供者：竹内ゆかり(株式会社インソース)	47名

10月4日	第3回ジャーナル・カフェ テーマ「生体間腎移植ドナーの経済的負担とメンタルヘルス」 話題提供者：池田直隆講師（在宅看護学）	28名
11月1日	第4回ジャーナル・カフェ テーマ「新人看護師の学習活動におけるエンゲージメント」 話題提供者：勝山愛講師（看護教育学）	31名
11月29日	看護学部FD研修会 テーマ「考える力をつくる研究指導」 1. 基調講演「考える力をつくる看護学分野の研究指導」 西村ユミ教授（東京都立大学健康福祉学部） 2. シンポジウム話題提供者 ① 「社会科学分野における主体性を引き出す研究指導」 永井史男教授（大阪公立大学法学部） ② 「工学分野における研究の継続性を引き出す研究指導」 吉本佳世講師（大阪公立大学工学部） ③ 「社会人看護職から問いを引き出す研究指導」 志田京子教授（大阪公立大学看護学部）	77名
12月6日	第5回ジャーナル・カフェ テーマ「地域在住高齢者における尿酸とアテローム性動脈硬化症との関連について」 話題提供者：田中健太郎准教授（地域看護学）	23名
1月10日	第6回ジャーナル・カフェ テーマ「カロリー摂取は朝が良い？夜が良い？」 話題提供者：清水彬礼講師（療養ケア科学）	24名
2月7日	第7回ジャーナル・カフェ テーマ「救急医療機関における自殺未遂者への関わり」 話題提供者：柱谷久美子助教（精神看護学）	22名
3月6日	第8回ジャーナル・カフェ テーマ「研究成果を共有するための方法：論文投稿後に研究成果公開促進費（学術図書）を取得して学術図書を出版した経験の共有」 話題提供者：平谷優子教授（子ども・家族看護学）	未実施
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（＊月＊日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数

拡大 FD 委員会	第 1 回(4 月 18 日)教学アセスメントについて	7 名
FD 委員会	第 1 回(4 月 18 日)2023 年度活動予定について	4 名
拡大 FD 委員会	第 2 回(5 月 17 日)教学アセスメント・ポリシーについて	7 名
FD 委員会	第 2 回 (6 月 16 日) ハラスメント研修の企画について	5 名
FD 委員会	第 3 回 (2 月 16 日) 2023 年度活動報告、2024 年度活動の検討、教学アセスメントについて	3 名
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組 (但し、成績 GP 分布関連は次項に)		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄 (必ずご記入ください)		
GP 分布や GPC データ分析等を活用して教学アセスメントの評価を行う際に、学内検討体制を整えていく必要性について、意見交換を行った。		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)		
・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (68) 人		
・所属内の専任教員の人数 (70) 人		
7. その他、追記事項		

生活科学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)		
・研究科及び学部それぞれの教務委員会において FD の議題を設け、情報共有を行うとともに、学部及び研究科の FD 活動を推進している。		
・学部の各学科の学科会議において FD の議題を設け、FD 事項をすべての教員にフィードバックしている。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容 (タイトル)	参加者数
2024 年 2 月 7 日	研究科教授会において生活科学研究科 FD 研修として、教学アセスメントの実施方針 (アセスメント・ポリシー) の策定にともなう学部・研究科カリキュラムポリシーの改定を取り上げた。	55 人
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (* 月 * 日) ~ について」)	委員の人数

	「第2回…」と記載)	
生活科学研究科 大学院教務・入試委員会	研究科のFD活動に関して、課題・情報の共有を行った。 毎月第2水曜日に開催。	11人
生活科学部 学部教務委員会	学部のFD活動に関して、課題・情報の共有を行った。毎月第2水曜日に開催。	11人
各学科 月例FD会議	各学科のFD活動に関して、課題・情報の共有を行った。 毎月第4水曜日に開催。	58人
生活科学部・研究科 教学アセスメント委員会	教学アセスメントの実施等に関して、学部内に教学アセスメント委員会を新設して適宜開催し、実施方針（アセスメント・ポリシー）の策定やアセスメントのリスト及びシート等の作成、策定にともなう学部・研究科カリキュラムポリシー改定などにかかる作業を行った。	5人
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に）		
・研究科の初年次教育（1年次前期）について、全4コースを横断した必修科目「生活科学論ゼミナール」を2018年度に導入し、継続的に実施している。 ・学部の初年次教育（1年次前期）を2018年度に導入し、継続的に実施している（2023年度科目名：食栄養学科「食栄養学概論」、居住環境学科「居住環境学概論」、人間福祉学科「人間福祉学概論」）。 ・研究科の修士論文について、主査及び副査による複数指導体制のもとで指導を行うとともに、各コースにおいて中間報告会及び最終報告会を実施している。 ・学部の卒業論文または卒業設計について、主査及び副査による複数指導体制のもとで指導を行うとともに、各学科において報告会を実施している。 ・成績優秀な学生の表彰を行っている。そのうち、研究科の修了生及び学部の卒業生については、3月の学位記授与式で行っている。		
5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
・研究科及び学部それぞれの教務委員会においてFDの議題を設け、GPCデータを共有し、研究科の各コース及び学部の各学科において成績分布の点検・分析を行うこととし、必要に応じて成績評価の課題等の検討を行うこととした。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (58) 人 ・所属内の専任教員の人数 (58) 人		
7. その他、追記事項		
特になし。		